

博愛会誕生ものがたり

30年を振り返って

博愛会誕生ものがたり

社会福祉法人博愛会



社会福祉法人博愛会

令和3年は、北上市が平成3年4月に、旧北上市、和賀町及び江釣子村の3市町村の合併により誕生し、「市制施行30周年」「第60回北上・みちのく芸能まつり」「展勝地開園100周年」の3つの記念事業が重なる「キタカミ トリプル アニバーサリー 2021」の記念すべき年でした。令和4年4月24日には、北上市市制施行30周年記念式典が行われます。

社会福祉法人博愛会は、平成5年5月に設立した法人ですが、設立の源流となっているのは、平成3年4月の「寝たきり老人を考える会」発足でした。そこから数えると、博愛会も令和3年に30周年になったことから、北上市の取り組みに因んで、地域の方々とともに歩み続ける博愛会役職員の心意気と、更なる発展の糧となることを祈念して博愛会誕生物語「30年を振り返って」を編纂し発行するものです。



北上川 珊瑚橋 (H25.2.16)

八天の里拠点



現場打合わせ (H6.1.21)



落成記念式典 (H6.5.29)



落成記念式典 (H6.5.29)



雪の中工事進む (H6.1.24)



落成祝賀会で職員が踊りを披露 (H6.5.29)

建物内部を視察する及川理事長 (左側)



八天の里航空写真 (H17.9.26)

エスカール拠点



エスカール着工前の現地 (H9.9.2)



安全祈願祭 (H9.9.7)



杭打ち工事始まる (H9.9)



基礎工事 (H9.10.17)



1階土間工事 (H9.11.21)



4階ベランダ (H10.3.25)



完成に向けて急ピッチ (H10.4.21)



完成に向けて急ピッチ (H10.4.21)

器 くちない拠点



土壌改良・擁壁工事 (H24.8.27)



グループホーム、デイ建設工事始まる (H24.12.27)



グループホーム土間工事 (H25.2.8)



工事現場 (H25.3.18)



完成間近 (H25.7.13)



特養の杭打ち始まる (H25.12.3)



降雪の中での作業 (H23.3.11)



特養浮牛の里建設中 (H26.3.24)



特養完成に向けて急ピッチ (H24.7.2)



特養引渡式での関係者記念写真 (H26.7.31)



牛小屋での死

(著書「やすらかな 死を支えて。」から)

理事長 及川 優

昭和54年(1979年)、私は岩手医科大学放射線医学講座の助教授を退き、診療所を開業し、父と一緒に念願だった地域医療に取り組み始めた。

開業から数年後の真冬のことである。その日は久しぶりの大雪だった。午後5時頃、診療所に電話がかかってきた。

「夫が腹痛で苦しんでいるので、往診してほしい」切羽詰まった声である。老いたおばあさんの声だった。私は車に乗り、患者の家へ向かった。大雪のために道幅が狭まっている。

ただでさえ細い道の上、除雪もしていないので、車では行けそうもない。途中で道路脇に駐車し、歩くことにした。

雪は激しく降り続けていた。長靴は膝あたりまで沈みこむ。このまま遭難したら笑えないなと思いながら、歩き続けた。

30分ほどして、ようやく目的の家へたどり着いた。

「ごめんください」

玄関で遠くに声をかけると、やがて、腰がくの字に曲がったおばあさんが出てきた。

「よくおでってくださいました。どうぞ、こちらへ」

お婆さんは外に出る。離れでもあるのだろうか。患者はそこに移されているのかもしれない。腑に落ちなかったが、後に従うしかない。

「ここがんです」

案内されたところは牛小屋だった。やはり何かの間違いだ。

「おばあさん、私は獣医じゃないですよ」

小声で言った。ぼけているのかもしれないという考えが脳裡をよぎる。

「ここにおります」

がたごとと戸を開けた。中は小さな裸電球の明かりだけで薄暗い。外だって暗くなっている。うなり声が聞こえた。薄い闇を透かした。

目を凝らして思わず声を上げそうになった。素っ裸のおじいさんが藁の中に横たわっている。

「どうして、こんなところに……」

おばあさんは泣きべそをかいた。

聞くと、おばあさんは病弱なのでうまく看病できない。排便や排尿の世話がとくに大変である。牛小屋だと藁で用を足したあと、それを交換できる。家の中だと寒いのが、藁の中だとぬくもりがあり我慢できる。だからここで看病しているのだと言う。

おばあさんの言うことには一理あった。藁は天然のおしめになる。だが感心などはしてられない。

上腹部には握りこぶしより大きくて硬いしこりがあった。私はがんだと直感した。最終的な診断結果は病

院で精密検査しないと出せないが、経験上まず間違いなかった。病院へ搬送しなくてはならない。

「入院させないと……」

私が言い終わらないうちに、おばあさんはかむりを振ってさえぎった。一人息子が5年前に家を出ていったきり、行方が知れない。

じさまと二人っきりの生活で、入院すると働く者がいなくなる。生活ができなくなるし、入院しても医療費は払えない。私が負けじと反論しようとしても「入院はできない」の一点張りである。

「ここで治してください」

どうしても説得に応じてはくれない。私は胸が苦しくなりながらうなずくほかはなかった。このままでは、あと数日間しか生きていられないだろう。

私は対症療法を行い「明日、また来るから」と約束して帰宅の途に着いた。診療所に着いたときには午後11時。その晩はなかなか寝つけなかった。

あの老夫婦は結婚してから汗水流して働いてきたはずだ。どうして晩年になって、あのような試練を受けなくてはならないのか。

なぜ温かい蒲団の上で静かに眠れないのか。安眠さえ奪われたおじいさんは、今も冷たい牛小屋の中に横たわっている。

胸をかきむしりたい心境になった。

翌朝六時、おばあさんから電話が入った。

「おじいさんが……息をしていない」

かぼそい声だった。すでに覚悟を決めていたのだろう。私は「すぐに行くから」としか言えなかった。前夜と同じように雪道を通して、途中から歩いた。

牛小屋の中でおじいさんは冷たくなっていた。

明け方の冷え込みに耐えられなかったのだろう。私は遺体を抱いて、家の中へと運び入れた。

がん患者の多くは病院で臨終を迎える。おじいさんは病院でさえ死ねなかった。

あるいは病院よりも自分が働いた牛小屋の方が幸せだったのかもしれないと思ってみても、しょせんは気休めに過ぎない。

「できるなら、温かい蒲団の上で家族に見守られながら最期を迎えてほしかった」

心の底からそう思った。

このときの衝撃的な体験をきっかけに、私は「住み慣れた自宅で療養したい」という患者の希望、「家の中で看取りたい」という家族の願いを聞き入れるには、どうしたらいいのだろうと考えるようになった。

「とりあえず自分のところから始めなくては」

間もなく私は、今日でいう「訪問診療」「訪問看護」ができる体制を当院のスタッフで整えることになった。

おじいさんの「冷たい死」は、私に在宅療養（在宅緩和ケア）に踏み出す大きな力を与えてくれたことになる。

理事長略歴

及川 優（おいかわ まさる）

1941年（S16）岩手県北上市生まれ

岩手医科大学大学院修了

トロント大学留学

岩手医科大学助教授を経て、

1979年（S54）有床診療所及川放射線科開業（北上市）

1991年（H3）医療法人優親会及川放射線科内科
医院に改称

外来、入院診療の他に在宅療養、在宅緩和ケアの
普及に尽力

1993年（H5）社会福祉法人博愛会理事長

2004年（H16）北上医師会会長

著書「やすらかな 死を支えて。」など

思い起こしてみれば

理事長 及川 優

長男の交通事故

思い起こせば、昭和53年、長男が岩手大学付属小学校に入学して初めての夏休みのある日、友人宅への遊びの帰り道、歩道上で交通事故に合い、2週間余りの意識消失状態に陥り、わが家に悲しみと不安がのしかかったのです。

勤務先の岩手医科大学当局と医局の理解のもととはいえ、病室に泊まり込みの看病をしながら、2年前に就任したばかりの助教授という大任を背負っての教育・研究・診療を続けることは極めて困難になることが予想されました。

時間と経済面からも、5人家族の生活維持は難しいとの不安にも包まれる日々の中で、この子の将来は・・・？

地元に戻り、父母の協力を求めようと決心し、長男の入院が続く中、盛岡市の一戸俊夫建築設計事務所にて診療所開設の設計を依頼したのでした。

建築は父の知人である北上市の株式会社伊藤工務所（取締役伊藤重吉氏）に依頼しました。

長男は、1年生の3学期を迎えようとしていた頃、幸いに退院ができるまでに回復し自宅療養となっていました。大学に6月末をもっての退職願を出したことを早計であったと思う気持ちもあったのですが、覆水盆に返らずとの思いから事を前進させたのでした。

建築は順調に進み、昭和54年5月、父の経営する及川医院を継承し、父の念願でもあった入院設備の整った有床診療所及川放射線科（後に医療法人優親会及川放射線科内科医院と改称）を、現在社会福祉法人博愛会が運営する博愛ヘルパーステーションと地域包括支援センター展勝地のある場所に、入院、訪問診療を主軸に地域に密着した医療提供の構築をめざし開設しました。

時、まさに高齢化社会を目前に控え、保険・医療・福祉の一体化が叫ばれていました。

ほぼ同じ時期から、長男のリハビリテーションの一環として転地療法を取り入れるために家族5人で北上市立花に転居し、父母の協力のもとに2年間を過ごしました。

幸い、この間に長男の体調回復は順調に進み、元の小学校への復学がかない、再び家族5人で盛岡の自宅へ戻り、私の盛岡からの通勤17年間が始まったのでした。

特別養護老人ホーム建設の契機

そんな真冬のある日の夕方、牛小屋で老々介護を

強いられていた農家への往診を体験し、地域の方々がお公費によって利用できる福祉施設の必要性を痛感したのでした。

こんな折り、古くから日本人の生活の中には福祉の底流にある“貧者の一灯”という思想が受け継がれている（福祉の心）等のお話を福祉の草分けである元民生児童委員・八重樫竹治さんや八重樫昇さんからお聞きする機会に恵まれました。

一方、岩手県職員で福祉行政に携わった経験のある盛合長之助さんとは、患者・家族と医師や年齢差を超えて福祉の糧を懇切丁寧にご享受いただきました。

こうした中で私の脳裏に特別養護老人ホームの建設計画が浮かび、盛合さん、父母、妻と話し合いを重ね、理解協力のもとに実現に向けて動き出したのでした。

建設予定地は診療所のある立花地区とし、数か所の候補地の中から白羽の矢を立てたのは八重樫幹男さんのリンゴ園でした。早速、福祉施設建設の必要性や趣旨説明をさせていただき、ご理解とご協力をいただくことになりました。

寝たきり老人を考える会

平成3年4月、「寝たきり老人を考える会」を発足させ、発起人7人の連名で立花地区での特別養護老人ホーム建設計画を市や県に申請しました。発起人は及川優夫妻、及川清夫妻、盛合長之助夫妻、八重樫竹治の各氏でした。

当時、北上市の老人保健福祉計画の一環として、更木地区に社会福祉法人児玉会による特別養護老人ホーム建設計画があり、次期計画の策定時に取り上げてくださるとの回答をいただきました。

平成4年のある日、市福祉部から呼び出しがあり、社会福祉法人児玉会による更木地区での特別養護老人ホーム建設計画が中止となったので、同地区に限定し、同事業を継続する方向で検討して欲しいとの提案が示されたのです。

前年、立花地区での特別養護老人ホーム建設計画の申請書を市に提出していた経緯があつての問い合わせでした。

更木地区の方々との協議や協力体制がかなり進んでいたこともあり、解答には急を要するとのことでした。

地元の期待が大きい中、市としては計画の中断は避けたいようでした。

数日の考慮する時間をいただいて、「寝たきり老人を考える会」の皆さんとの意見交換の結果、立花地区での福祉施設の計画は後日改めて検討することにし、今回は市の申し入れを受けることに決定し、6月

26日に回答させていただきました。

特別養護老人ホーム建設に動き出す

7月2日、法人名を、全ての人を等しく愛する精神のもとに活動する社会福祉法人博愛会とし、施設名を国指定の八天遺跡に隣接していることに因んで「八天の里」とすることにしました。

8月23日、岩手大学藤原俊三教授に八天の里のイメージデザインを依頼し、関係者へのPRに利用することにしました。

9月16日、第1回法人設立準備会を開催。出席者は及川優、及川清、盛合長之助、福盛田共治、千田三一、澤藤修三(市推薦)、菅原勘二(市推薦)、及川和子、八重樫イワ子の各氏と市側から中館久二北上市福祉部長、小笠原哲哉同課長、小原正次同課主幹の各氏の他に事務担当者として北上市社会福祉協議会立ち上げ時の事務担当経験のある山田隆之事務長、募集に応じて下さった大鷹かおる事務員の二人でした。設立準備室は旧及川放射線科事務室内(現博愛ヘルパーステーション)に置きました。

9月21日、博愛会設立準備会の決定に基づいて、法人設立認可申請及び国庫補助金の交付申請を行いました。

これに先立って、財団法人日本船舶振興会(現公益財団法人日本財団)に助成金申請を行ったのですが残念ながら不採用となった経緯があります。この結果を受けて、県当局のご指導の下に国庫補助金の交付申請を行うことになったのでした。

当時、山田隆之事務長が関係書類を風呂敷に包み抱えて、県庁へ日参する姿は今でも忘れることができません。大変ご苦労様でした。衷心より感謝申し上げます。

平成5年4月28日付で国庫補助金交付の内示を受け、さらに5月28日に法人設立が認可され、本格的に事業の取り組みが可能となったのでした。

八天の里の建築設計は、高橋建築事務所に依頼、同事務所の加藤康久建築設計士が中心になり、斬新でしかも利用者に優しい心温まる施設を目指し設計を担当していただきました。

加藤設計士を伴っての施設見学はもとより、設計を依頼するにあたり、事前調査の一環として発起人による先輩施設研修を行いました。

私の運転するトヨタ・ランドクルーザーに乗っての見学会は車高が高かったので乗り降りに苦労される方もおり、普通乗用車に台替えした記憶が甦ってきます。私自身は県内外の施設35か所を訪問させていただきました大変お世話になりました。ありがとうございました。

建築には高弥建設株式会社が担当し、冬場にかかった難工事にもかかわらず一生懸命建築に取り掛かっていただきました。

当時、私は自宅のある盛岡から北上の診療所にほぼ毎日、台替えした三菱ディアマンテで通勤していましたので診療開始前後に工事現場に立ち寄り、工事の進捗状況を把握したものでした。

平成5年5月に大鷲さんが退職。それを引き継いだのが、父母から推薦された北上ライオンズクラブ事務職経験者の及川江美子事務員で、澤藤修三、菅原勘二、山田隆之各氏の指導の下に事務全般に大いに手腕を発揮していただきました。

そうした中で、ヨーロッパでの研修を終えて帰国したばかりの及川誠君と、盛合長之助氏紹介の鹿俣達也君が施設運営の要である主任生活指導員として加わることになり、職員確保にも明るい兆しが見えてきたことは私にとって、この上ない喜びでした。

八天の里誕生

平成5年4月に設立した社会福祉法人博愛会は、平成6年4月に“心温まるケア”をモットーに更木地区の北上川東岸にある国指定八天遺跡に隣接して公設民営の特別養護老人ホーム「八天の里」を開設しました。

更木地区への特別養護老人ホームの誘致は地区民上げての念願であり、熱い思いが市当局の関係者の心を動かし、北上市老人保健福祉計画に基づき建設されることになったものです。当時の誘致活動を指導された方々の並々ならぬご努力に敬意を表します。

立花地区で発足した「寝たきり老人を考える会」は、縁があって途中からこの計画に直接関わらせていただくことになり、故福盛田共治氏をはじめ更木地区の方々のご理解とご協力のもとに事業の展開の道が開かれたものです。

特に施設運営で欠かすことのできない人材確保については、地元をはじめ近隣の方々のご理解のもとに優秀な方々の応募・協力をいただくことができたことに感謝いたします。

美しく優しい“さらき三人娘”として親しまれた菊池節子さん、平野裕子さん、福地美栄さんをはじめ、全ての職員の精力的な活動に心から感謝いたします。

早いもので、八天遺跡に隣接して、社会福祉法人博愛会が特別養護老人ホーム八天の里を開設してから28年が経ちました。

初代澤藤修三園長をはじめ及川誠、鹿俣達也、川邊泰雄、高橋智子、福地弘歴代園長、役職員の皆様に衷心より感謝申し上げます。

この間に、法人設立時に大変お世話をいただいた方々との幾多の辛く悲しいお別れに接してまいりました。

振り返ってみますと、平成4年9月開催の第1回法人設立準備会に名を連ねてくださった方々のうち現職で役職員として継続勤務しているのは私だけになってしまいました。

この世の常は無情なもので、多くの喪失感に覆われてまいりました。ご尽力いただいた方々のご安寧とご家族様のご発展をお祈りいたします。これからも暖かくお導きください。

八天の里の小史については、“八天の里”の一周年記念誌と文集八天の里および10年のあゆみに譲ります。



八天の里「記念誌」

この場を借りて開所時から協力医療機関としてご協力をいただいている医療法人優親会の役職員の方々と、医療法人川岸会及川歯科医院、理事・歯科医師及川忠男氏をはじめ役職員の各位に感謝申し上げます。

ケアハウスエスカール誕生

独自事業として平成10年7月、立花・稲瀬地区に自分の家としての軽費老人ホーム「ケアハウスエスカール」を開設しました。

特別養護老人ホーム八天の里建設許可の付帯事項として軽費老人ホームの建設が盛り込まれており、八天の里開所と同時期に整備する予定でしたが、諸事情により5年遅れで整備することになりました。

しかし、平成3年に特別養護老人ホーム建設予定地としたリンゴ園は、給排水などインフラ整備計画をはじめ北上市中心部から遠く、利便性等に問題がありケアハウスに求められる立地条件としては不適切と判断し断念せざるを得ませんでした。

新たに、数か所の候補地を検討し、現在地に落ちついたのですが、用地買収に際して一部地主の反対もあり最小限の用地取得になった経緯があります。

立花・稲瀬地区の福祉の拠点として軽費老人ホームを主体とした地域に密着したサービスの提供をめざして、地域の要望も踏まえて計画しました。

平成9年3月、法人理事会で建設事業計画を了承。八天の里澤藤園長、山田事務長、及川誠、鹿俣達也両主任生活指導員と私の5人でケアハウス設計協議会を立ち上げ、設計は藤原俊三岩手大学名誉教授の紹介で盛岡市の渡辺敏男氏が率いる盛岡設計同人に建築設計を依頼。建築は入札の結果、盛岡市の樋下建設（株）が落札。真冬を通しての難工事でしたが平成10年4月の開所にこぎつけたのでした。

スタッフは及川紅子園長、及川江美子事務職員、菅原智恵生活指導員の僅か3人でのスタートでした。一致協力して利用者に寄り添いながら励む職員の姿に居住者の方々から称賛の声が聞かれ、親しまれ感謝されながらの充実した運営の基礎を築いていただきました。今日もその精神は受け継が



開所当時のエスカール（航空写真）

れています。歴代園長は及川紅子、及川誠、鹿俣達也、伊藤絹子、福地弘、高橋智子の各氏です。

玄関先にはエスカールの命名に因んで盛合長之助氏の寄贈による“人生の寄港”の碑が建立されており、昼夜を問わず利用者の方々を温かく見守ってくださっております。

また、私の福祉事業への関わりの原点である立花地区での拠点の整備として、ケアハウスエスカール開所の6年後、法人本部も八天の里からエスカール事務室内に移動しました。

事務局を担当してくださった山田隆之（事務局長兼副園長）、佐藤俊一（事務局長）、浮津康逸（事務局長）、及川江美子（事務局長）の各位に感謝いたします。

特に、13年の長期にわたり、法人の安定経営にご尽力いただいた浮津康逸事務局長に敬意を表します。家庭生活が犠牲になっているのではないかと心配になるほどの献身的な勤務ぶりでした。ご苦労様でした。

なお、開設当初の詳細や併設のデイサービスセンター、在宅介護支援センターについては、平成11年7月17日発行の「エスカール」心温まるケアをめざしての一周年記念誌に譲ります。



浮牛の里誕生

平成25年5月～26年11月、口内地区に地元民とともに歩むデイサービスセンター浮牛の里、グループホームくちない、地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里を開設、地域の方々が身近に感じ親しみ易い憩いの場としての福祉の拠点整備を行ってまいりました。

八天の里開所当初からの懸案事項に口内地区への福祉サービスの拠点整備がありました。診療所の患者さんの中には口内地区の方が多く、口内地区にも八天の里のようなものを建設してほしいとの要望が絶えなかったのです。

エスカールの整備が落ち着いたら考えますと話し、地元出身の伊東宗行氏から、伊東家跡地を取得し計画の模索が始まったのですが、人口減少が著明な



口内デイサービスセンター（仮称）建設予定地

地域での職員確保に困難が予想されたほかに地域での諸事情で10年ほど経過したのですが、地元民の要望は絶えることなく早期の整備を望む声が大きく、この状況をみかねた鹿俣達也エスカール園長が率先して取り組みを促し、彼の思いと相まって実現にこぎつけることができました。

この地区の開発に先立って実施した地質調査では予想外に土壌改良や盛土に費用がかかることが示され、建設場所の変更を検討したのですが適切な場所が見つからず、やむを得ず原案通りとなった経緯がありました。

デイサービス事業、グループホーム事業、地域密着型特別養護老人ホームと順次に事業を拡大させ今日に至っています。

浮牛の里はこの地区の皆さんから親しまれ愛されている浮牛城址を見上げる場所に因って命名しました。

人口減少と高齢化率の高いこの地区における経営は難しさを伴いますが、初代園長鹿俣達也、2代目園長及川佳寿美を中心に、地域の方々の並々ならぬご理解とご協力により役職員が一丸となって心温まるケアに取り組んでおります。心から感謝申し上げます。

おわりに

数年前から世界中を震撼させている新型コロナウイルス感染症禍。予防や治療方法に進化し続ける対策・研究を追い抜こうとするウイルスの脅威。こうした中で人間社会では少子高齢社会のピークを迎えようとしています。

法人の許認可申請の当初から福祉施設の在り方など全般にわたり親身になりご指導くださった県、市の関係者の皆様から心から感謝いたします。財政的にも国、県、市からの助成金をいただき、特に北上市のご理解ご協力により施設整備に取り組むことができました。

公設民営として開所した八天の里の運営をはじめ幾多の困難を乗り越え、八天の里拠点、エスカール拠点、浮牛の里拠点の構築に取り組んだ先輩の役職員に感謝いたします。

令和元年の改元にちなんで、博愛会の役職員の今後の取り組みの指標とすることを目的に、令和2年度を初年度とする博愛会5カ年計画を策定し、取り組みを開始しました。

コロナ渦、社会情勢が大きく変化しつつある昨今、職員確保、教育、有資格者確保など問題は山積していますが、利用者の心に寄り添いながら癒しの場となるよう心温まるケアをめざし、地域に密着した福祉サービスの提供を役職員が一丸となり継承してまいりますので、今後も宜しくご指導ご鞭撻をお願いいたします。

博愛会とともに30年

博愛会本部事務局長

及川 江美子

この度、30年を振り返るにあたって、古い記憶と記録を探しながら思い起こしてみました。

平成3年は、及川清先生からのお声がけがあって、「旧及川医院」で「ライオンズクラブ国際協会 332-B 地区キャビネット事務局」をお手伝いしておりました。その任期は、平成4年8月で終了。私は、ちょうど第2子の予定日が11月で、産休に入る時期でした。

そこに、社会福祉法人の「認可申請書類」作成の手伝い依頼がありました。私は、北上市役所の1階の奥に籠って、担当の小原主幹と準備を進めました。お手伝い出来たのは、9月の末頃までだったと思います。そこで「社会福祉法人博愛会」との関係は終了したものと思っていました。

今は、社会保険料の免除や育児休暇制度等で子育て中の職員は大変優遇されています。当時に比べると本当に当事者にはありがたいことです。しかし、事業所は対応できる職員配置や体制を取っていく事が大変になっています。

そして、平成4年の4月から、今度は「及川放射線科内科医院」に勤めることになりました。その時には、「旧及川歯科医院」の場所が「社会福祉法人博愛会」の準備事務室となっていました。診療所から職員の大鷹おるさんが、関係者の方達の手伝いをされていました。

それが今度は、大鷹さんがご家庭の事情で、継続出来なくなってしまいました。やはりご縁があったのか、博愛会の仕事を引き継ぐことになった次第です。

平成6年4月1日に特別養護老人ホーム八天の里が開所。当初に辞令発令となった職員は、32人でした。それが現在では、入浴介護事業の廃止や厨房委託等で少し違いますが、グループホームさらきを除いても64人になり倍の職員数です。介護員だけでなくサポートする職員も多く配置になっていて3拠点合わせて180人になっています。

平成6年の開所前には、先輩施設で研修させていただきました。事細かに一からご指導いただき大変あ

りがたいことでした。初めての社会福祉法人会計と行政手続き、補助金の関係に山田隆之事務長と二人で苦労しました。施設は、行事なども沢山あり本当に新鮮な事だらけで毎日大変でした。

職員が何班かに分かれての研修旅行も行っていました。澤藤修三初代園長と御一緒する事が多かったような気がします。他施設を見学して、日頃の気になるところを他の職員に聞いたり確認したり、職員間の交流も出来て有意義な研修でした。介護保険制度後は、何かと業務も繁雑になり、他施設の負担も懸念され、職員の休日の過ごし方や意識も変わり、お休みの調整を計るにも難しくなっています。更に今は、新型コロナウイルス感染予防の事もありますので、もっと難しい状況であります。

平成10年には市内で初の軽費老人ホームケアハウスエスカールが開所、八天の里から異動となり、及川紅子初代園長のもと、ケアハウスの施設職員として入居者様たちとの生活をどのように過ごしていったら



後列左から及川園長、松下相談員、
前列左から山田事務局長、私

良いのか、少ない職員で工夫し先進施設を見習って進んでいきました。

平成12年には介護保険法が制定され、介護業界の大きな転機となりました。当時の北上地方振興局の菊地政文副主幹には、早く経営者が進む道を決められるように資料を作って示してさしあげてください。というようなお話しをされたことを記憶しています。それが出来て来なかったこと、未だにできていないことを、痛感していて、いつまでも忘れられないでいます。

平成 13 年には法人事務局をエスカルに移しました。東和町役場の福祉課を経験されてきた佐藤俊一事務局長が八天の里からエスカルに異動となり、いろいろ



浅沼事務員、佐藤事務局長

ご指導をいただきました。

現在は、東和町で「NPO法人ゆう・ゆう」の理事長で、グループホーム等の運営をされています。

平成 17 年からは、佐藤事務局長に代わり、浮津康逸事務局長がやってきまし

た。沢山の行政経験と資格を活かしてご指導をいただきましたが、なかなかそれらを引き継いでいない未熟な自分が情けない限りです。



浮津事務局長と私

口内地区に平成 25 年、グループホームくちないとデイサービスセンター浮牛の里が、26 年には地域密着特別養護老人ホーム浮牛の里が開所。博愛会は、立花、更木、口内の 3 拠点が連携を取り運営しています。

平成 31 年 3 月、浮津事務局長が勇退され、4 月からは私が事務局長に任命されました。ちょうど平成から令和への切り替えと共に心機一転とはいかず、肩の荷が重い毎日で早 2 年が過ぎようとしています。

歴代の 3 人の事務局長のご指導のもと共に歩んできましたが、色々の制度改正等もあり、都度対応には苦勞してきました。いまだに前事務局長に、相談させていただいております。

令和 3 年 3 月には定年退職という日を迎える事が出来、その後も嘱託職員として勤務させて頂いています。能力に限界を感じながらも身辺整理がつかず不備だらけの自身の現状をなんとかすべく頑張りたいと思います。

現在は、本部事務局次長の渡辺みつ美さん、主任事務員の八重樫幸さんという優秀な部下に恵まれ、順調に仕事を進めています。二人には本当に感謝しています。

博愛会 30 年という記念の年まで携わることができましたこと、入居者、ご利用者はもとより、関係下さっているご家族、役職員の皆様に感謝申し上げます。

これからも博愛会がより一層発展していけるよう微力ながら努めて参りますので、今後とも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



左から渡辺本部事務局次長、私、八重樫主任事務員

歩みとともに今思うこと

八天の里拠点統括所長

福地 弘

30年前の平成3年、私は、花巻市の特別養護老人ホームで楽しく仕事をしていました。平成5年、地元更木に老人ホームができることを知り、地元で介護の仕事がしたいという思いから応募、ご縁があり、平成6年4月から特別養護老人ホーム八天の里でお世話になることになった。

当時自分は、介護員という立場であり、入居者の方々に「1日一回は笑っていただくという思い」と、「八天の里に来てよかった」と感じていただけのように心がけていた。



H6年クリスマス会余興(右端が私)

当時の同僚介護員は、入居者に対する思いはひとつだったように思うが、目標に向うまでの方法や考え方がバラバラになることも多く、当時の主任介護員や主任生活相談員は困惑したに違いない。

経験が浅い私たちは認知症の方々の行動には十分に注意していた。ある日の夕方頃、休日だった私の家の電話が鳴った。「Yさんがいなくなった」という内容だった。

自分は、八天の里に急ぎ、施設の中や、施設の周辺を探した。職員みんなで探したが見つからない。とにかく、Yさんの無事を祈るばかりだった。暗くなる前に地元の方から電話が八天の里に入った。「北上教材社の近くの田んぼで座っている人がいる」

急いでその場に数名で駆け付けた。Yさんは足が泥だらけになっていたが無事だった。ケガもせず、本当によく無事でいてくれた。車に乗っていただき胸をなでおろしながら八天の里に戻ったことを覚えている。その後も、自分が夜勤の時に、ある入居者の方が窓から外に出てベッドからいなくなり、宿直もしていた主任生活相談員が探しに出て、県道を歩いているところを発見、無事に戻ってきたことも思い出す。

認知症の方は、環境の変化でソワソワしたり、表情が険しくなるなど不安な気持ちも大きくなっていく。介護する側が入居者の方に対し、「穏やかに」「笑顔で」「否定せず」「入居者の話に耳を傾ける」など、接し方ひとつで認知症症状の進行を遅らせることができることも感じ取れるようになり、自分自身のやりがいの一つにもつながった。



八天の里盆踊り大会(H7.8.19)

平成12年からは介護保険がスタート。これまでの「措置制度」から、利用者が介護保険サー

ビス事業所と「契約」し「介護保険サービス」を選択できるようになった。

平成 13 年 5 月には県内外に向けて、八天の里身体拘束ゼロを宣言。今でも継承されており、「人権尊重、人が嫌だと思ふケアは行わない、なおかつ生活の質を良くする」職員同士が知恵を出し合ったことを思い出す。



クリスマス会余興 (H10.12.19) ピエロが私

デイサービスや訪問入浴、在宅介護支援センター、さくらまちケアホームでも経験をさせていただき、在宅介護では「老老介護」も目の当たりにしたが、私たち以上に思いやりのある介護が行われている家庭もあり「何年も時を重ねて寄り添って過ごしてきたんだなあ」と微笑ましい場面も見ることができた。

一方で「老老介護による介護力不足」も在宅介護の限界を感じさせる言葉となった。「でも、自宅が一番いい」「自宅で死にたい」など、その言葉は頭から離れなかった。



節分 福男は澤藤園長 (H11.2.3)

今年で 28 年目を迎える八天の里は、ご利用者の皆様とそのご家族、そして地域の方々など多くの方々にこれまでご支援をいただき四半世紀の時を超え、「心温まるケアを目指して」をモットーに介護サービスを展開してきた。

これまで八天の里に長期入居した方は 370 人を超え、決して楽しいだけではない介護の現場、場合によっては看取り介護も行っており、「感謝の気持ちを込め心穏やかに」お見送りさせていただき、利用者・入居者の皆さんからは「相手の気持ちになって考える」ことも学ばせていただいた。

私は、介護という仕事をとおして、従業者も利用者の方もお互いを支えあい、共に心豊かに生き、人として成長できる場だと思っている。



令和 3 年度八天の里敬老会 (左端が私)

介護施設の現場は、介護員、生活相談員、看護職員、介護支援専門員、栄養士、事務員、営繕員など多くの職種で構成されており、従業者の皆さんが心身共に健康で過ごしながら、利用者・入居者の方々に「八天の里に来てよかった」と感じていただける対応をしたならば、博愛会のモットーである「心温まるケアを目指して」は継承できると信じている。

周囲の支えで30周年

エスカール拠点統括所長

高橋 智子

私は、平成5年9月の博愛会職員採用試験で採用されましたが、看護師の立場で八天の里建設にも関わらせていただきました。

建設中の八天の里を、理事長である及川先生に案内していただき、先生の特養建設への熱い思いを聞かせていただきました。やりがいと同時に責任の重さで不安が募ったことを思い出します。

平成6年4月、澤藤修三初代園長、山田隆之事務長の指導の下、福祉現場で経験のあった及川誠主任、鹿俣主任を中心に、試行錯誤しながら八天の里がスタートしました。

私はデイサービスの訪問入浴係に配属されましたが、配属された職員は全員未経験でしたので、敬愛園の訪問入浴に1週間同行して勉強させていただきました。しかし、実際に訪問入浴を行う場面では判断に迷うこともありましたが、利用者さんには、とても喜んでいただき、やりがいを感じました。



訪問入浴の一場面（右端が私）

当時はヘルパー業務も市から委託されており、掃除や洗濯の必要な方もいました。大変でしたが実際に地域に足を運び、様々な方と触れ合い、その方が必要としているサービスを提供できたことが私の福祉の原点となっているような気がします。

平成8年4月、八天の里在宅介護支援センターに配属され、地域の高齢者や独居の方を中心に家庭訪問し、健康相談をしながらお話を聞かせても

らいました。直属の上司だった及川誠主任は勉強家で、デイサービスの会議の度、私たちに福祉制度等について指導していただきました。

平成12年度から介護保険制度が始まるため、ケアマネージャーの資格取得を目指して勉強し、またケアプラン作成の為、不慣れなパソコンと深夜まで格闘した日々。当時は必死でしたが、今では懐かしい思い出です。若かったから頑張れたのかもかもしれません。

平成13年4月、特別養護老人ホームに異動になり看護師としての再勉強。スタッフの協力で実現できたグループケア、看取り介護、マニュアル作成等、とにかくやらなければという思いで、みんなで試行錯誤しながら取り組みました。

入居者を看取り、お別れ会の後、ある入居者さんに「高橋さん、私も看取ってね」と言われました。この時、ようやく看護師として認められた思いでした。今でも時々その方のことを思い出し、私の心の支えになっています。



看護師と課長の二刀流

当時は看護師であり課長という立場の為、深夜、早朝、休日に関係なく施設からの電話に対応しなければならず、家族にも迷惑をかけてしまい、理解してもらうのが大変でした。今まで仕事を続けることが出来たのは、お年寄りとの仕事が好きだったこと、そして様々な勉強の機会を与えて頂き、自己研鑽させていただいたお陰と思っています。

理事長は、医師としての使命感の強い方で、入院のほうが良いのではと思われる方についても、「僕が責任を持つから・・・」という言葉でショートステイとして受け入れることが度々ありました。不安を感じながらも指示された医療措置を行い、回復される姿を目にすると、安堵感と同時にやりがいを感じました。

施設では、嘱託医として理事長との連絡体制が確保されており、深夜早朝に関係なく駆けつけて貰えましたので、安心して働くことが出来ました。

歯科医師の及川忠男先生には、軽いフットワークで八天の里に積極的に関わって頂き、職員の口腔

ケアに対する意識付けや加算算定にも結び付けることが出来ました。感謝しています。

八天の里は開所当時から地域とのつながりを大切にしており、特に夏祭りは地域の方にも開放し、慰問やボランティアに来てもらい、隣接のグループホームさらきと合同で盛大に行っています。

開所当初は裏庭の広大な芝生を会場に行っていましたが、数年前から正面玄関の駐車場に変更し、地域の方にも多数参加してもらっています。メインは地域の子供達や鬼剣舞、太鼓等で、特に翔南高校の鬼剣舞部の皆さんには頻回に来ていただき、参加者の目を楽しませていただきました。

敬老会もグループホームと合同で行っています。入居者の皆さんも正装し、お化粧をして記念撮影。ご家族と一緒にお祝いを受け、いつもと違う緊張感が垣間見えます。幸の会の皆様には毎回踊りの披露と、斎藤幸子先生からは長年にわたって車いすを寄付していただき、大変ありがたく思っています。



幸の会 (H30.4.18)

開所当時から太田代公先生には歌唱サークルの先生として来てもらい、明るく澄んだ歌声と軽やかな語り口調に入居者さんも私たちも魅了されました。私も仕事をしながら先生の歌声に聞き入り、癒され、楽しい時間でした。また、吉田良子先生にも、書道サークルの先生として長年ボランティアに来ていただきました。入居者の作品を県の書道展に出展し、賞状をいただいた皆さんは居室に飾り満足そうでした。毎年更木の文化祭にも出展しました。八天の里は、お二人の長年にわたるボランティア活動に支えられ、今日があるものと思っています。

令和2年は、新型コロナウイルスの感染症が世界的に大流行。感染予防のため、すべての行事を縮小し、慰問やボランティアの受け入れも制限しなけ

ればならず、今までいかにボランティアや慰問の皆様へ頼り、支えられていたか痛感せざるを得ませんでした。

新型コロナウイルス感染予防の為、看護師として園長として、危機感をもって取り組まなければならず、更に職員不足も重なり心身共に疲弊しました。しかし、入居者さんの優しい笑顔に癒され、事務室に聞こえるデイサービス職員の元気な明るい声や、職員不足の中頑張っているホームの職員の姿に励まされました。

博愛会は現在、八天の里、エスカール、浮牛の里の3拠点で事業を展開していますが、私は八天の里以外で働いたことがないため、ある意味「井の中の蛙」で、園長として職責を全うすることの難しさを痛感することもありました。そういう中、前・浮津事務局長には、穏やかな人柄で様々な助言をいただき、ありがたかったです。

令和3年4月からはエスカールに異動になり、新たな気持ちで臨んでおります。ケアハウスでも感染予防のため外出や面会、慰問の受け入れを制限しましたが、10月からようやく緩和し、運動やサークル活動も再開できるようになりました。ある入居者さんに「ここにいるから安心です。」と言われました。入居者さんが日々の生活を心穏やかに、そして安心して過ごしていただけるよう寄り添っていきたいと思います。

介護保険制度が始まり20年以上経過しましたが、制度はますます煩雑化し、制度に対応するため職員の資質向上、人材育成が重要な課題となっています。

昨今は感染症予防の為様々な研修がオンライン研修となり、以前より参加しやすい状況となっています。職員の資質向上の為、積極的に研修に参加し自己研鑽できる体制を整え、福祉の仕事、介護の魅力をアピールし、人材不足の解消ができるようになればと思います。

少子高齢化社会、私たちの介護を外国人やロボットに委ねることのない様、更に人生100年時代、最大のリスクは認知症と言われていますが、誰もが安心して老後を過ごせるよう高齢者福祉施設は今後更に重要な役割を担うことになると思います。

これからも博愛会が地域に信頼され、地域に必要とされる法人であるよう努力してまいります。

博愛会に育てられた私

くちない拠点統括所長

及川 佳寿美

私と博愛会との出会いは、平成5年の秋頃だったと思います。この年の6月に結婚したばかりで仕事をせず専業主婦をしていました。

ある日、北上市の広報で八天の里の職員募集の記事を目にしました。学生時代は幼児教育を学んでいたため、高齢者のことや介護のことは全くわかりませんでした。何故かやってみようかなと思ったのです。

当時は介護福祉士という資格があることも、介護福祉士を養成する専門学校があることも知りませんでした。今になって思えば、どんなことをする仕事なのかもわかっていなかったと思います。

採用試験の時には若くてはつらつとした女性たちがたくさんいました。介護のことは全くわからないため無理かなと諦めていましたが、無事博愛会にお世話になっております。

八天の里1年目、ホームは生活相談員の鹿俣さん、看護師の伊藤絹子さん、千田一子さん、寮母・寮父（当時はこの名称）の菊池節子さん、福地実栄さん、福地弘さん、昆幸治さん、佐藤宏子さん、藤川（旧姓：兼田）有子さん、前島知恵さん、鬼柳（旧姓：高橋）順子さん、高橋真由美さん、瀬川美雪さん、私、でのスタートでした。本当に訳も分からず無我夢中で毎日過ごしていました。楽しいことも辛いことも、とにかく皆で話し合っただけで何とかしようとしていたと思います。大変だったのですがとても充実していました。

八天の里2年目は、1人目の子を妊娠。夜勤のオムツ交換はただでさえ大変なのですが、妊娠中の身で何人ものオムツ交換を一人でこなすのは大変でした。そんな時、普段ほとんど話をするのがなかったMさんが「ありがとう」と言ってくれたのです。この「ありがとう」は、今でもよく覚えており、私がこの仕事を続けられる原動力になっていると思います。

4年目。実務経験を3年積んだ私は、介護福祉士の資格に挑戦しました。1次試験は筆記です。仙台まで試験を受けに行きました。1次試験をパ

スし、2次試験は実技でした。2次試験の当日、私は38度台の発熱があったのですがこれを逃してはいけないと仙台の会場へ向かいました。この時介護主任の菊池節子さんが一緒だったのでとても心強かったです。何とか実技試験を終え、帰りに菊池主任へ「明日は休みます」と言って自宅へ帰ったのを覚えています。大変な思いをして受験した介護福祉士ですが、何とか資格を取得できました。無理を押してでも行って良かったと思いました。



県南ブロック輪投げ大会 (H8.10.9)

6年目の平成11年には2人目の子供を出産しました。育休が明ける直前でしたが、自分の不注意で足の指を骨折し、松葉づえをついて仕事復帰しました。

8年目の平成13年4月、私は八天の里デイサービスセンターへ異動になりました。初めてのデイサービスとは違いとても新鮮な気持ちでした。毎日利用する方が変わり名前と顔を覚えるのが大変でしたが、変化があり楽しかったです。在宅サービスということで様々な家庭環境の方がいることも知りました。前の週は元気に利用していたのに、次の週には会えなくなる方もいました。その時、もしかしたら今日が最後になるかもしれない、デイに来てくれた今を悔いのないよう楽しんでもらわなければと思うようになりました。

9年目は特養八天の里の生活相談員として異動になりました。生活相談員の大先輩、現鹿俣統括には時に厳しく、時に優しく??指導していただきました。だからこそ今の自分があると思っています。落ち着いた入居者がいれば相談係や事務室で見守りをする、食事介助の手が足りなければ手伝う、入浴介助の手が足りなければ手伝う等、職種を超えた協力体制を当たり前にしたのも、鹿俣統括の

働きかけが原点だったと思います。これは今も職員皆に根付いていますし、博愛会にとっては当たり前のことです。他の施設に自慢できることの一つです。

私はこの年ケアマネに挑戦。筆記試験に合格し実務者研修を受けたのですが、路面凍結の悪天候の中、当時博愛会で一番の高級車エステマをもって滝沢のアピオから北上まで帰って来るのに4時間ぐらいかかったことが思い出に残っています。

10年目の平成15年7月、突然のエスカル在宅介護支援センターへケアマネとして異動内示。私的にはまだまだ施設ケアマネとして頑張りたいという思いがあり、涙涙で異動しました。異動してからは、心新たに居宅ケアマネの仕事を先輩ケアマネの平野裕子さんにたくさん指導していただきました。



エスカル職員 (H15.11.28) 私は後列右から3人目

11年目の平成16年から17年までの2年間は、社会福祉士の資格を取得するために通信教育を受けました。スクーリングがあり、2年続けて1週間ずつ休みをもらい札幌へ行きました。勉強ももちろん頑張りましたが、スクーリングで知り合った仲間たちとススキノでの飲みニケーションも思い出に残っています。

当時エスカルデイにいた佐藤（旧姓・松下）素子さんと互いに励ましあいながら受験にむけて勉強を進めていました。平成17年の年末、風邪をこじらせたのか喉の痛みがなかなか良くならず、及川医院にお世話になりました。病院が休みの時でも理事長が心配してわざわざエスカルまできて下さり本当にありがたかったです。結局年明け（平成18年）早々入院になってしまいました。

1月末に国家試験を控えていたため、病室に参考書を持ち込み勉強するはめになりました。結果的には仕事を休んでいる間も勉強ができ、何とか

一発合格することができました。一緒に受験した素子さんも合格でした。当時エスカル園長だった及川誠さんに、私たち二人の合格祝いをしていただいたことも思い出です。

13年目の平成18年4月、古巣八天の里へ施設ケアマネとして異動になりました。

平成23年3月11日、忘れることのできない東日本大震災がありました。あの時間食堂ホールにいた私は尋常じゃない揺れに、ホールより各通りの方が安全と聞いていたことを思い出し、そばにいた入居者Kさんを連れて花の小径のふくじゅ草の入り口に避難。入口の柱にしがみつきながらKさんの体を支え、この世が終わるのではないかと思ひながら必死に耐えました。

この年の4月から約10年ぶりの介護員。原点回帰で楽しさ半分、歳を感じしんどさ半分といった感じでした。

19年目の平成24年4月からは福祉施設課長、施設ケアマネとして始動。

21年目の平成26年は口内に新設される特養の開設準備室長に。平野誉大さんと照井雅代さんと3人で開設準備をスタート。その後続々とスタッフが増えみんなで頑張りました。この年の8月に地域密着型特養浮牛の里がオープン。約1か月半の間に29人満床になるよう受け入れ対応をしました。生活相談員の菅原千文さんと二人で手分けをして、入居の事前説明、入居時の送迎、契約と目まぐるしい毎日を過ごしました。ユニットケアは博愛会でも初めての経験で、日々手探りの状態でしたが、ユニットリーダーを中心に皆で作りに上げていく感じが、八天の里の開所当初を思い出させ、楽しかったです。

24年目の平成29年、私にとっては初めてのグループホームへの異動です。デイサービス所長も兼務でした。何もわからない状態で所長を仰せつかり、不安いっぱいでしたが、グループホームの職員、デイサービスの職員みんなに支えられ、3年勤めることができました。

令和2年副園長として浮牛ホームへ戻り、令和3年4月から現職の園長になりました。

これまで博愛会に育てていただき今があると思います。まだまだ未熟者ですが、一緒に働く皆とこれからも「心温まるケア」を日々実践していきたいと思っています。

思い出の夏油高原マラソン

3 拠点統括所長

鹿俣 達也

私は、平成6年4月から博愛会にお世話になっています。八天の里開所時の生活相談員が博愛会職員としてのスタートでした。

平成6年開所の八天の里は、北上市内3番目にできた特別養護老人ホームです。入所希望者はたくさんいましたが、入所者と施設が入所契約を結ぶ方法ではなく、北上市が法律に基づいて入所優先順位を決めて入所措置をしていた時代でした。

現在は介護保険制度のもとで、介護度3以上の方でないと特別養護老人ホームに入所できませんが、措置の時代は、今で言う介護度1や2程度の方もたくさん入所していました。

自分ひとりで歩かれる、食べられる方が多かったため、展勝地公園で花見をしたり、八天の里の芝グラウンドで運動会や盆踊り大会、文化祭をやったりしたものです。



八天の里運動会 (H7.5.27)

いろいろな行事を計画するたびに、職員みんな遅くまで残って準備したことを、懐かしく思い出します。自分たちの手で、行事ができあがっていくのが、楽しくて、面白くて、辛いとは少しも思いませんでした。

ただ、自宅に帰ると子供たちはすでに布団の中、顔を合わすのは朝だけという日も多く、妻や子供た

ちには、申し訳なかったかな？

若い頃の私は、ジョギングを趣味にしていたので、職員に呼びかけて男子10km、女子5kmの夏油高原マラソンに参加した事もありました。出場について理事長に報告したところ、理事長がスポンサーになって、「八天の里」と「エスカール」の名前入りTシャツを作って下さいました。沿道の人たちがTシャツの名前を見て、「八天の里ガンバレ」「エスカーलगンバレ」と応援してくれて、うれしかったのを覚えています。



夏油高原マラソン参加者 (H10.9.13)

平成12年からは措置の時代が終わって介護保険制度が始まり、入居者の状態はガラリと変わりました。車椅子や寝たきりの方が大半となり、全員で花見に出かけるとか、運動会に参加することなどは、とても無理でした。

入居者の皆さんに楽しんでもらうため、職員自らが踊りを披露したり、幼稚園や保育園のちびっ子たちを招待して交流会を設けたりという行事に変わっていきました。利用者を楽しんでもらいたいという気持ちは、代々の職員たちに伝統として受け継がれていると思っています。

自分の年齢が上がるにつれ、主任、課長、副園長、園長という役職がつき、八天の里、エスカール、浮牛の里の3拠点で園長を経験しました。そして令和3年度からは、博愛会3拠点を総合的に見る立場の3拠点統括所長（嘱託）を拝命しています。この法人で働くことが出来てよかったと思っています。

年表で 30 年を振り返る



社会福祉法人博愛会のあゆみ（平成 3 年～平成 9 年）

平成 3 年 (1991)	4/1 北上市誕生 (旧北上市、和賀町、江釣子村の 3 市町村合併) 4 月 「寝たきり老人を考える会」発足し、博愛会誕生の原点となる
平成 4 年 (1992)	7/2 法人名を博愛会、施設名を八天の里と命名 9/16 第 1 回法人設立準備会発足
平成 5 年 (1993)	5/28 社会福祉法人博愛会設立認可 9/19 八天の里拠点建設工事着工
平成 6 年 (1994)	4/1 八天の里拠点オープン (特別養護老人ホーム、デイサービスセンターA型、在宅介護支援センター) 4/1 八天の里園長に澤藤修三氏就任 (初代) 4/5 八天の里入所第 1 号 平野リエ子様 5/29 八天の里落成式・祝賀会 9/4 八天の里ゲートボール場開き
平成 7 年 (1995)	4/1 八天の里創立 1 周年記念誌「心温まるケアをめざして」発刊 5/16 八天の里裏庭にサクラの記念植樹 (NTT から寄贈) 5/16 八天の里開所 1 周年記念式典
平成 8 年 (1996)	8/21 ケアハウスに関する非公式協議開催し、ケアハウス設計を盛岡・設計同人渡邊敏男氏に依頼することに決まる。 9/12 北上市長に「ケアハウス及び併設施設建設事業に対する助成要望書」提出 9/19 老人の主張岩手県大会で八天の里入所者・阿部キヌ様優秀賞受賞 11/12 北上市成人福祉課から、ケアハウス及び併設施設建設事業に対する北上市助成額の内示あり。
平成 9 年 (1997)	1/24 ケアハウス及び併設施設建設事業に関する地権者協議 (及川放射線科内科医院) 8/25 ケアハウスエスカール、エスカール在宅複合センター新築工事指名入札 (八天の里、指名 8 業者) →落札者: 樋下建設 (株) 8/29 樋下建設とのエスカール建設調印式 (八天の里理事長室) 9/7 ケアハウス新築工事安全祈願祭 (祭事: 現地、直会: 桜町公民館) 11/21 社会福祉医療事業団福祉借入金の金銭消費貸借契約書締結 (借入金額: 2 億円)



八天の里地鎮祭



八天の里建設の様子 (H6.1.24)



八天の里拠点オープン (H6.4.1)



八天の里入所第 1 号 平野リエ子様 (H6.4.5)



エスカール建設調印式 (H9.8.29)



職員採用試験 (H9.10.11)

社会福祉法人博愛会のあゆみ（平成10年～平成15年）

平成10年 (1998)	4/1 軽費老人ホームケアハウスエスカール開所 4/1 ケアハウスエスカール園長に及川紅子氏就任（初代） 4/1 通所介護事業所エスカールデイサービスセンター開所 4/1 エスカール在宅介護支援センター開所 6/13 エスカール落成記念式典・祝賀会 （ホテルシティプラザ北上、来賓52人、法人役員9人、法人職員23人）
平成11年 (1999)	5/22 第1回博愛会評議員会 初代評議員15人委嘱 6/12 エスカール開所1周年記念行事 （施設見学、記念講演、かいごくん、1周年記念誌発行）
平成12年 (2000)	4/1 介護保険制度導入「措置から契約へ」 6/1 八天の里デイサービスセンター利用定員25人を30人に変更 6/1 エスカールデイサービスセンター利用定員25人を30人に変更
平成13年 (2001)	2/1 福祉サービス苦情解決仕組み要綱制定 第三者委員3人を2/20付け で委嘱 5/9 法人本部事務局移転（八天の里からエスカールに） 4/1 経理が新会計基準となる 5/1 八天の里身体拘束ゼロ宣言（施設として岩手県初の宣言）
平成14年 (2002)	4/1 社会福祉法人博愛会基本理念の制定 8/14 北上市みちのく芸能まつり市民パレードに博愛会チームとして初出場
平成15年 (2003)	5/28 法人設立10周年記念日 7/1 八天の里園長に及川誠氏就任（2代目） 10/1 八天の里デイサービスセンターおよびエスカールデイサービスセンターで 土曜日営業開始



エスカール定礎除幕式（H10.4.27）



エスカール開所1周年記念式典（H11.6.12）



身体拘束ゼロ宣言（H13.5.1）



開所1周年記念行事特別講演（H11.6.12）



北上市みちのく芸能まつり初出場（H14.8.14）

社会福祉法人博愛会のあゆみ（平成 16 年～平成 20 年）

<p>平成 16 年 (2004)</p>	<p>5/21 盛合長之助理事 岩手県社会福祉施設経営者協議会表彰 6/19 八天の里開所 10 周年記念式典・祝賀会（式典：八天の里、祝賀会：ホテルシティプラザ北上） 8/19 特養八天の里大規模修繕工事（①外壁亀裂補修②ボイラー室煙突回り屋根葺き替え③ボイラー室屋根煙突回り塗装④排煙装置修繕⑤外構沈下部分アスファルト舗装⑥ボイラー真空ヒーター部品交換⑦シンボルタワー改修⑧洗面台自動水栓取り替え等）請負契約 契約者：岩建工業（株） 契約金額：1,200 万円</p>
<p>平成 17 年 (2005)</p>	<p>1/1 八天の里デイサービスセンターおよびエスカールデイサービスセンター日曜日営業開始 3/31 エスカール初代園長・及川紅子氏退職 3/31 八天の里園長・及川誠氏退任 4/1 エスカール園長に及川誠氏就任（2 代目） 4/1 八天の里園長に鹿俣達也氏就任（3 代目） 5/18 川村壽一理事 岩手県社会福祉施設経営者協議会表彰</p>
<p>平成 18 年 (2006)</p>	<p>3/25 日本小型自動車振興会から入浴車納車（八天の里） 5/22 前監事・菅原勘二氏 岩手県社会福祉施設経営者協議会表彰 8/22 博愛会パソコン使用環境（ネットワーク環境）整備 事業費：3,756,000 円、実施業者：富士ゼロックス岩手、（株）ワイズマン、ピシプロ・アイテック</p>
<p>平成 19 年 (2007)</p>	<p>5/9 八天の里・真空式温水機（ボイラー）交換工事入札（エスカール会議室） 落札者：（有）三協ボイラー商会 契約額：¥9,765,000 8/21 小規模多機能型居宅介護施設・建築設計管理業務委託契約締結 9/1 H 18 年度日本自動車振興会補助対象事業（H19 年度実施事業）の申請車納車 レジアスエースウェルキャブ（八天の里送迎車） 事業費：¥3,410,000 補助金：¥2,200,000 自己資金：¥1,210,000</p>
<p>平成 20 年 (2008)</p>	<p>1/23 小規模多機能型居宅介護施設「さくらまちケアホーム」建築工事指名競争入札 落札者：千田工業（株） 2/2 さくらまちケアホーム建設工事安全祈願祭（現地） 7/12 さくらまちケアホーム落成式（現地） 7/12～13 さくらまちケアホーム内覧会 7/17 さくらまちケアホーム開所式 9/16 さくらまちケアホーム利用者数の変更 9 人から 12 人に</p>



特養八天の里大規模修繕工事（H16.9.3）



さくらまちケアホーム地鎮祭（H20.2.2）



さくらまちケアホーム工事（土台敷き H20.3）



さくらまちケアホーム開所（H20.7.17）

社会福祉法人博愛会のあゆみ（平成 21 年～平成 25 年）

平成 21 年 (2009)	<p>1/6 日本財団 2008 年度福祉車両助成事業（日本財団）対象福祉車両の納車 車種：ダイハツハイゼット（八天の里送迎車） 事業費総額：1,181,000 円 助成額：700,000 円 自己負担額：480,000 円</p> <p>3/31 エスカール園長・及川誠氏退任</p> <p>3/31 八天の里園長・鹿俣達也氏退任</p> <p>4/1 八天の里園長に及川誠氏就任（4 代目）</p> <p>4/1 エスカール園長に鹿俣達也氏就任（3 代目）</p> <p>11/26 ケアハウスエスカール屋根修繕工事に着手 工期：12/18 まで</p>
平成 22 年 (2010)	<p>7/14 高齢者グループホーム設計管理を（有）加藤設計に委託</p> <p>10/8 グループホームさらき新築工事入札 落札者：フジネ建設</p> <p>10/16 グループホームさらき新築工事起工式（現地）</p> <p>11/16 特養八天の里の特殊浴槽購入（株）サンメディカル、8,767,500 円</p>
平成 23 年 (2011)	<p>2/12 グループホームさらき竣工検査及び引き渡し</p> <p>3/11 東日本大震災</p> <p>4/17 グループホームさらき開所</p> <p>8/19 特別養護老人ホーム八天の里スプリンクラー設置工事入札 落札業者：丸片機水工業（株） 落札金額：54,600,000 円</p> <p>11/22 丸紅基金東日本大震災復興助成金贈呈式（場所：仙台市・TKR 仙台カンファレンスセンター、出席者：及川紅子常務）</p>
平成 24 年 (2012)	<p>1/30 特別養護老人ホーム八天の里スプリンクラー設置工事完成に伴う竣工検査、引受</p> <p>5/19 口内デイサービスセンター（仮称）及びグループホーム口内（仮称）設計管理業務の委託契約締結 委託業者：（有）加藤設計</p> <p>9/21 グループホーム口内、口内デイサービスセンター敷地造成工事完成（請負者：小田島組）</p> <p>9/28 博愛会が北上市地域包括支援センター業務請負先法人に決定</p> <p>11/15 グループホーム口内、口内デイサービスセンター新築工事の入札（エスカール会議室） 参加事業者：5 社 落札業者：なし</p> <p>11/19 口内地区木造建物解体工事の完了</p> <p>11/20 グループホーム口内、口内デイサービスセンター新築工事の再入札（エスカール会議室） 参加事業者：5 社 落札業者：なし 最低価格を提示した千田工業（株）と協議</p> <p>2/6 グループホーム口内、口内デイサービスセンター新築工事請負契約締結 相手方：千田工業（株） 工事請負額：125,000,000 円</p> <p>12/11 グループホームくちない、デイ浮牛の里新築工事地鎮祭（現地）</p>
平成 25 年 (2013)	<p>1/4 地域包括支援センター展勝地開所</p> <p>1/15 地域密着型特別養護老人ホーム口内設計監理業務委託契約締結 委託先：（有）加藤設計</p> <p>3/31 八天の里園長・及川誠氏退職</p> <p>4/1 八天の里園長に川邊泰雄氏就任（5 代目）</p> <p>9/26 地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里新築工事の入札（エスカール会議室） 参加業者：7 社 落札業者：菱和建设株式会社（盛岡市） 落札額：424,000,000 円</p> <p>10/25 グループホームくちない、デイサービスセンター浮牛の里 引渡式</p> <p>11/1 グループホームくちない、デイサービスセンター浮牛の里開所</p> <p>12/1 居宅介護支援事業所浮牛の里開所</p>



グループホームくちない、デイ浮牛の里地鎮祭（H24.12.11）



包括支援センター展勝地開所（H25.1.4）



グループホームくちない開所式（H25.11.1）

東日本大震

平成23年3月11日(金)14時46分、東日本大震災発生。

震央地は、三陸沖の宮城県牡鹿半島の東南東130km付近で、震源の深さ約24km。

マグニチュード9.0、最大震度7(宮城県栗原市)、北上市は、震度5強でした。

災の記録



車庫のシャッターが外れてぶら下がる(八天の里)



地震直後の八天の里寮母ステーション



地震直後の特養八天の里事務室



側溝が陥没(八天の里)



本棚の本が散乱(八天の里)



地割れのできた八天の里駐車場



地割れ(八天の里駐車場)

地震当日の施設利用者数と出勤職員数

八天の里拠点	入居者	職員
特別養護老人ホーム八天の里長期	50人	16人
特別養護老人ホーム八天の里短期	10人	
八天の里デイサービスセンター	24人	8人
八天の里訪問入浴		3人
八天の里在宅介護支援センター		3人
合計	84人	30人

エスカール拠点	入居者	職員
ケアハウスエスカール	27人	5人
エスカールデイサービスセンター	26人	10人
さくらまちケアホーム	13人	5人
エスカール在宅介護支援センター		4人
博愛ヘルパーステーション		8人
合計	66人	32人

東日本大震災 八天の里拠点経過報告

日付	時間	特別養護老人ホーム八天の里 (長期入所)	特別養護老人ホーム八天の里 (短期入所)
3/11 金		施設内には長期入所者50人、短期入所者10人、職員介護員、看護師、ケアマネ) 16人がいた。水分補給の時間帯でした。居室で休んでいる人、サロンでテレビを観ていた人、ホールにいた人、入浴していた人様々だった。	
	14:46	東北地方を中心とする東日本の広範囲で強い地震発生。マグニチュード 9.0、	
	15:00	揺れがひどくなったためホールにいた職員数人と入所者数人、花の小径廊下へ避難。その他の職員も居室やサロンにいた入所者の方へ駆け寄る。 揺れが落ち着いたところで、居室にいる入所者等の確認。ケガ人はいなかったがタンスの上に置いてあったカセットデッキや花瓶など落下している居室もあった。また浴室にも職員2人、入所者2人がいた。浴槽からあがったところで裸だったためすぐ服を着てサロンへ出てくる。 その後も余震が強いので、花の方は離床できる人は車椅子等に離床し、離床できない方はベットのままサロンとぼたん(4人部屋)付近で過ごす。杜も同様に車椅子等に離床できる人はできるだけ離床し、離床できない人はベットのまま、サロンと隣の「きり」「しらかば」の居室付近で過ごす。 ショートで泊まりにきていた千葉イマ様は「100年生きてきてこんなに強い地震は初めてだ」と話されていた。	
	15:30		
	被害状況	①食堂ホール天井両端の壁に亀裂が入り、一部崩壊している。 ②シンボルタワー最上部の壁の一部が落下したほか亀裂が入っている。壁落下の危険有り。 ③ボイラー室貯湯タンクの下部およびホーム特殊浴槽床下暖房管からのお湯漏れ有り。 ④車庫棟のシャッターが枠から外れてブラブラ状態となった。 ⑤霊安室仏壇が倒れ、扉や仏具が壊れた。	
	16:00		
	17:00	停電のため食事の準備ができず、献立を変更し非常食の缶詰で対応。ホールは壁が落下したり危険なため、各通りサロンで夕食を摂取る。懐中電灯が数本あったが停電のため薄暗い中での食事となった。あまりにも施設内が暗いため、花のサロン外側と杜廊下奥外側からそれぞれ車のライトを照らしていた。吸引器も使用できないため不安な中での食事介助だった。 夕食後できるだけ見守りをしやすいよう、また、いざという時避難しやすいよう、杜は一つの部屋に5~6人ずつ休んでいただく。(個室と手前の4人部屋、一番奥の4人部屋は使わず) 花もできるだけサロン付近の居室に休んでいただく。(2人部屋には3人、4人部屋には6人といった感じで)	
	18:00	おむつ交換実施。暗いため看護師やケアマネが懐中電灯で照らし介護員がオムツを交換。 暖房もないため、職員の一人在どこからか反射式ストーブ3台を借りてきてくれた。花、杜、食堂ホールにそれぞれ1台づつで対応したが、室内の温度は20度以下になることもあった。	
	19:00	杜・花棟に各3人ずつの夜勤態勢とした。また、園長と庶務課長が宿直をした。	
		夜勤者を増員して対応したがその夜は利用者も職員も不安な一夜を過ごす。なかなか寝付けず興奮して叫んでいる入所者もいた。	
3/12 土	7:30	朝食。ガスが使えたのでおかゆとご飯は温かい物が食べられた。おかずは温泉卵か納豆だった。貯水槽の水しかないため、食器もあまり洗えないとのことで、食器にラップをまき使った。	
	8:30	IBC ラジオに八天の里は無事の旨メールする。	本日の短期入所は3人を受入中止とした。
		フジネ工業、千田工業が地震の被害調査のため来園。	
		日中もまだ余震が続きもとの居室に戻れず、前日同様の対応。 寒いためなるべくベットから起きないようにして過ごしていただいた。	
		北上市長寿社会課から緊急車両としての証明書の交付を受け、さっそくガソリン、軽油を入れる。	短期入所は9人が宿泊。
		杜・花棟に各2人ずつの夜勤体制とした。また、庶務課長、昆虫主任、長谷川主任が宿直をした。	

八天の里デイサービスセンター (通所介護)	八天の里デイサービスセンター (訪問入浴)	八天の里在宅介護支援センター
利用者24人はデイホールで、おやつタイムの時間で、ほぼ全員が食べ終わった頃だった。	職員3人で、利用者宅で入浴の準備をしている最中だった。入浴を中止して施設に戻る。	職員4人中、1人が事務室で工作中、2人が訪問中、1人は公休日。
北上市の震度は5強。大津波が発生。停電、電話が不通、まもなく断水となる。		
利用者さんの気持ちが落ち着いた頃を見計らって、トイレ誘導や帰宅準備を始める。全員ケガ無し。		利用者宅にいたケアマネ1人は、その利用者の安全を確保した後、施設に戻りながら他の利用者の安否確認を行った。 北上駅前のクリニックで面談していたケアマネは、市営駐車場のバーが停電のために上がらず20分間ほど足止めされた後、施設に戻る。 施設にいたケアマネは、デイ利用者の安全確保に走った。
余震が強いので、全員をデイホール入り口に非難させる。		
デイホール窓側の天井ボードに亀裂が入り、一部落下した。 デイ浴室天井からお湯が漏れだした。 グレースルーム側駐車場に亀裂が入った。	入浴車に被害はなかった。	机上の書類が散乱した。
利用者の自宅送りを開始する。日中、家族が不在だった5人と独居の2人についてはデイホールで待機していただく。 配食弁当については作っている最中の地震だったため、4件のみ配達し、配れなかった方にはお詫びに歩く。	施設到着。 帰る途中の信号は停電のため、全てストップしていた。	
	ホーム入居者の介護の応援。	
自宅送りを遅らせていた5人については自宅に送ったり家族に迎えに来ていただいた。独居の方2人のうち1人については、八天の里に緊急短期入所し、もう1人の方は避難所となっていた地域の交流センターまで送り届けた。		
デイサービス、配食サービス共に休業。		
デイ職員5人出勤。		2人出勤。
契約職員、シルバーさんは休業期間中は休みとした。	しばらくの間は訪問入浴は営業停止にすることとなった。	デイ職員と協力しながら利用者宅の安否確認に回る。
電話が通じないため、利用者宅や避難所に安否確認に出向く。		

日付	時間	特別養護老人ホーム八天の里(長期入所)	特別養護老人ホーム八天の里(短期入所)
3/13 日		電気、水道、ボイラー使えず。	
	8:30	昨日同様、食事、水分補給、排泄介助等必要最小限の援助にて過ごす。	
		北上市の給水車が来園。 北上市からカット野菜の配給有り。	
	PM 23:00	水道復旧 電気復旧	短期入所は9人が宿泊。
		夜勤は3人体制。園長が宿直に入る。	
3/14 月	0:00	電気が復旧したためボイラーを点火したが、お湯が循環しない。	
	7:00	朝食	
	8:30		
	AM	ボイラー、配管設備の業者来園。床暖房、ホーム浴室暖房の配管に亀裂が見つかった。お湯漏れを防ぐため数カ所のバルブを閉め、居室棟のみ暖房できるようにする。	
	PM	電話は依然として不通 紙オムツ等も納品が未定で在庫減のため、オムツ交換を1日4回。 (3時、9時、15時、21時)で対応。 メフォス職員もガソリン不足で出勤が難しくなり、食事時間を7時、12時、16時30分に変更し対応 夜勤は2人体制に戻す。	短期入所は7人が宿泊。
3/15 火	早朝	余震でガス漏れ安全装置が落ちる。職員で復旧。	
	8:30	職員の携帯電話を使い、遠方にご家族へ入居者の無事を知らせる(相談係) 紙オムツの回収あり。しかし次の回収は未定。	公用車のガソリン不足、給食の食材不足から今週の無事を知らせる(相談係) 予定していた9人の短期入所受入を断る。
		職員の通勤車両の燃料不足が心配されるため、職員同士で相乗り出勤ができるよう勤務割りを調整したほか、	
	16:00	電話開通	短期入所は2人が宿泊。
3/16 水	8:30		
		給湯復旧したが、灯油入荷のメドが立たず入浴はまだできず。数人ずつ全身清拭を実施。 暖房は居室棟のみとしていたが降雪があり気温が下がったので、管理棟も断続的に入れた。 北上市長寿社会課から1週間分の米(60kg)を配給してもらえることとなった。	短期入所は2人が宿泊。
3/17 木	8:30	メフォス職員確保できず(ガソリン不足)、食事時間を7時30分、12時、16時30分に変更。 数人ずつ全身清拭を実施。	短期入所は2人が宿泊。
3/18 金	8:30	農協から米60kg購入。数人ずつ全身清拭を実施。	短期入所は2人が宿泊。
3/19 土		メフォスに食材届く。	短期入所は2人が宿泊。

八天の里デイサービスセンター(通所介護)	八天の里デイサービスセンター(訪問入浴)	八天の里在宅介護支援センター
デイサービス、配食サービス共に休業 デイ職員4人出勤。		2人出勤。
ホームの買い物や食事準備、食事介助等を応援。		他事業所と情報交換しながら、利用者宅の安否確認に回る。
デイサービス、配食サービス共に休業 デイ職員5人出勤。		3人出勤。
ホームの食事準備、食事介助等を応援。		散乱した倉庫内の片付け。 回れる範囲は自転車でお安否確認に行く。
		遠方の利用者宅は2人一組で車で訪問し、家の中の片付けを手伝ったりした。
デイサービス、配食サービス共に休業 デイ職員6人出勤。		
ホームの食事準備、食事介助等を応援。 利用者宅への連絡調整を行う。		平常勤務
通勤距離10km以内は自転車通勤、遠方の者については公用車での送迎等の対策を検討した。		
浴室天井からの水漏れ修理完了。		
デイサービス、配食サービス共に休業 デイ職員2人出勤。		
ホームの食事準備、食事介助等を応援。 他事業所、ケアマネ等との連絡調整。		平常勤務
デイサービス、配食サービス共に休業 デイ職員2人出勤。		
ホームの食事準備、食事介助等を応援。		平常勤務
デイサービス、配食サービス共に休業 デイ職員6人出勤。		
ホームの食事準備、食事介助等を応援。		平常勤務
デイサービス、配食サービス共に休業 デイ職員は休み。		
		平常勤務

日付	時間	特別養護老人ホーム八天の里(長期入所)	特別養護老人ホーム八天の里(短期入所)
3/21 月			短期入所は1人が宿泊。
	8:30	灯油の配達があり地下タンクに2000ℓ入る。軽油も手に入り、軽油の公用車は満タンとなる。	公用車のガソリン不足、給食の食材不足、紙おむつの不足から今週予定していた11人の短期入所受入を断る。
		髪の毛の汚れが目立つ方をベッド上で洗髪実施した。シーツ類納品される。	短期入所は1人が宿泊。
3/22 火			
		震災以来はじめての入浴。花の小径全員入浴する。居室をもとに戻す(自分の場所へ戻り、タンスも戻す)	短期入所は1人が宿泊。
3/23 水			
		杜の小径全員入浴する。	短期入所は1人が宿泊。
3/24 木			
		職員でシーツ交換実施。	短期入所は1人が宿泊。
3/25 金			
			短期入所は1人が宿泊。

週3回の入浴を、3/27から平常どおりに実施。	公用車の燃料、紙おむつの購入の目途が付いてきたため、3/28から短期入所受入再開。
-------------------------	---

八天の里デイサービスセンター(通所介護)	八天の里デイサービスセンター(訪問入浴)	八天の里在宅介護支援センター
デイサービス、配食サービス共に休業 デイ職員は休み。		休み
デイサービス、配食サービス共に休業 デイ職員5人出勤。		平常勤務
明日から平常営業となるため、施設内の清掃を実施。ただし、食材の関係から5人のみの利用で再開することとした。		
平常営業再開 通所利用者5人、配食弁当0件。 職員5人出勤。		
入浴は一般浴槽ではなく、浴槽の小さい特殊浴槽を使用。 床暖房が使えないため、反射式ストーブ2台使用。 配食サービスについては、食材の安定供給の見通しが立たないため、3月いっぱい休業とした。	公用車の燃料(ガソリン)、風呂釜の燃料である灯油確保の目途が立ったため、本日から通常営業を再開した。	平常勤務
平常営業 通所利用者10人、配食弁当0件。 職員10人出勤。		平常勤務
本日から一般浴槽の使用開始。 床暖房は故障中のため、反射式ストーブ2台使用。		平常勤務
平常営業 通所利用者10人、配食弁当0件。 職員8人出勤。		平常勤務
床暖房は故障中のため、反射式ストーブ2台使用。		平常勤務
平常営業 通所利用者10人、配食弁当0件。 職員8人出勤。		平常勤務
床暖房は故障中のため、反射式ストーブ2台使用。		平常勤務

食材が十分にそろわないため、献立は立てずにその日その日の食材で作っている。このため、3月いっぱい、通所利用者は1日10人ずつの受入とし、配食サービスは休み。	ガソリン、灯油確保ができたため、22日から通常営業。入浴を楽しみにしていた在宅要介護者から喜ばれている。	自宅が大きな被害を受けた方が2人。また、独居のため交流センターなどの避難所に避難した方が6人いたが、15日までには自宅に戻る。今後も見守りを続けていく。
--	--	--

東日本大震災 エスカル拠点経過報告

日付	時間	ケアハウスエスカル	エスカルデイサービスセンター
3/11 金		入居者27人全員が施設内にいた。園長はさくらまちケアホームに出かけていた。他の職員3人は事務室在席。伊藤営繕員は買い物代行で外出中。佐々木NSは公休日。	利用者26人はデイホールで、職員10人と共にレクリエーション活動中だった。
	14:46	東北地方を中心とする東日本の広範囲で強い地震発生。マグニチュード9.0、	
	14:50 ↓	本部と在介センター職員の応援をもらい、手分けして入居者の安否確認や、火の元、エレベーター内の確認を行う。	利用者をデイホール中央に集め、職員が取り囲むようにして心を落ち着かせ、人員確認を行う。
	被害状況	<p>停電となったためボイラーが停止、屋上の非常用発電機が大きな音を上げて作動、誘導灯はフラッシュ点滅、防火戸が数カ所閉じるなどしたため事務室内には警報ブザーが鳴り響いていた。</p> <p>エレベーターは4階で自動停止。幸いにも誰も乗車していなかった。</p> <p>事務室内は本棚から飛び出した本や書類が散乱、テレビやパソコンディスプレイが落下した。自販機コーナーの強化ガラスが破損し、ガラス片が散乱する。厨房では被害無し。</p>	<p>蛍光灯を納めている天井の梁を吊るワイヤーが1本きれたほか、3本のワイヤーが緩む。</p> <p>事務室コーナーや浴室脱衣所の壁に数カ所の亀裂が入る。</p>
	15:10	入居者全員を1階ミュージアムに集めて人員点呼し、全員の無事を確認。	利用者を早めに帰宅させることに決め、帰宅準備を始める。
	15:30	<p>玄関前で寒かったため、全員を会議室に移動させる。同時に、夕食のためのテーブルをミュージアムにセットする。</p> <p>厨房では配食弁当は完成していたが、ケアハウス夕食はご飯以外できていなかった。このため、非常食の缶詰を食材に使用する。</p> <p>職員宅から対流式ストーブ1台を借りる。</p>	<p>電話は不通となっていたため、利用者に乗せて自宅まで送り、家族の居たところだけ車から降ろした。</p> <p>家族が不在のところはエスカルに居る旨のメモを玄関ドアに挟んで帰園。連絡が付かなかったり、独居の方はデイホールで待機していた。</p>
	16:00	居室には戻れないことを入居者全員に説明。非常用毛布や水、缶詰、懐中電灯、電池、トランジスタラジオ等を施設内や入居者個人持ちのものまで全てかき集める。	配食弁当(9件)を配りながら、安否確認。連絡が付かなかった方2人と独居の方1人は、デイホールで待機していただく。
	17:00	懐中電灯の明かりの下、ミュージアムで非常食対応の夕食をとる。明日の朝食用の水を容器にためる。高架水槽の水が無くなれば、施設内は完全に断水となる。	3人の利用者の介護を続ける。明日のデイサービスは臨時休業することを決定したが、明日の利用者や家族に連絡できず。
	19:00	椅子では休むことができないため、デイホールのベッドと畳の和室に分かれて休むこととし、全員を移動させる。職員は夜勤2人、宿直1人体制として介護に当たった。夜勤は千葉事務員とシルバーさん。22時から伊藤営繕員が宿直に入る。園長、伊藤営繕員帰宅。	玄関のメモを見た家族が利用者を迎えに来る。残る2人の方はデイホールに宿泊することになり、夕食をとる。デイ職員は課長を残して帰宅。
	20:40	<p>余震が多発していたが、揺れで3階北側廊下の防火戸が閉じた際、天井のスプリンクラーヘッドにドアの一部が衝突。その衝突でヘッドが壊れ、大量の水があふれ出る。</p> <p>まだ残っていた職員、いったん帰宅していた園長も出勤し、水処理に当たる。約1時間後、水は止まり床掃除も終わる。水は1階会議室前まであふれ落ちた。</p>	八重樫課長はスプリンクラーの水処理に奔走。
	22:00	伊藤営繕員出勤。園長、千田ひとみ相談員帰宅。	八重樫課長帰宅。
	2:00	園長出勤。ラジオで、北良(株)は在宅酸素の酸素ボンベの配送ができないので必要な方は取りに来て欲しいと放送していた。そこで、入居者・千葉静恵様の酸素ボンベをもらいに、伊藤営繕員が出向く。	
3:00	伊藤営繕員帰宅。		

エスカル在宅介護支援センター	博愛ヘルパーステーション	さくらまちケアホーム
職員5人中、3人が事務室で仕事、1人が訪問中、1人は公休日。	所長は有休。常勤者2人は訪問等で外出中。1人が事務室当番。パート2人はケア中。4人が車で移動中。	利用者13人と職員5人が施設内にいた。たまたま、鹿保統括所長が来園していた。
北上市の震度は5強。大津波が発生。停電、電話が不通、まもなく断水となる。		
エスカルに居たケアマネは、ケアハウス入居者の安否確認を手伝う。利用者宅で家族と面談中だったケアマネは、話しを中断してエスカルに戻った。	所長は事務所に出勤。ケア中の者はそれぞれの現場で利用者との介護を続け、ケアに入っていない職員は安否確認に走る。	利用者全員をホールに集め、気持ちを落ち着かせる。統括所長は利用者の無事を確認してケアハウスに戻る。
机上の書類が散乱。	引き戸付きの書棚が大きく揺れて場所が移動する。書類の散乱は無かったが、書棚の中で書類が乱れた。エアコン室外機が設置場所から数センチ移動した。	事務室の本棚や机上の書類が床に散乱したが、利用者の居た居室やホールは全く異常なかった。
ケアハウス入居者の安否確認を手伝う。	独居利用者の安否確認を行う。	公休日だった職員3人が駆けつける。
一人暮らしや老人世帯の安否確認に出かける。	ケア中だった職員は、余震も続いていたため時間を延長して利用者のケアにあたった。	<p>利用者の気持ちを落ち着かせると同時に、今後の対応について職員同士で協議する。</p> <p>利用者4人について安否確認に出かける。</p>
一人暮らしや老人世帯の安否確認。	独居の方の安否確認では、近所の方に見守りを依頼したり、遠方の家族に連絡をとる努力をした。	通いの利用者の送りを開始する。エスカルから非常用の水、缶詰を分けよう。
ケアハウス入居者の介護の手伝い。	<p>独居の方の安否確認では、近所の方に見守りを依頼したり、遠方の家族に連絡をとる努力をした。</p> <p>18時、最後の職員帰宅。</p>	<p>当初の宿泊予定は5人だったが、老人のみ世帯や家族と連絡の付かなかった方3人と合わせて8人が宿泊することとなった。</p> <p>夕食をとる。(非常食対応)</p>
入居者介護の手伝いで残っていた菅原主任も水処理に追われる。		<p>暖房は反射式ストーブ2台(1台は博愛ヘルパーステーションから借用)を使用した。</p> <p>余震が多発しているため、夜勤者の他に宿直として職員3人が途中交代で残ることとした。</p>
菅原主任帰宅。		<p>22:00</p> <p>IBCラジオに安否情報のメールを送る。「北上市の小規模多機能施設さくらまちケアホームの職員です。こちらにいらっしゃる利用者様は全員無事です。皆さん、今おやすみになられています。夜勤スタッフを増やして対応しています。ご家族の皆さん、ご安心下さい。」</p> <p>福地課長帰宅、高橋介護員出勤。22:20 IBCラジオで放送される。</p>

日付	時間	ケアハウスエスカール	エスカールデイサービスセンター
3/13 日	13:30		
	15:00	15時まで、入居者の行動をフリーとする。ただし、外出は園長許可を得て、エスカール近辺の散歩のみとした。夕食(非常食対応)。園長帰宅	地震後泊まり込んでいたデイ利用者は八天の里に短期入所が決まり、八天の里まで送る。
	16:00		
	18:00	本日も昨日同様にデイホールでの宿泊となる。入居者24人。	デイ職員2人が、ケアハウス入居者の介護のため夜勤に入る。
3/14 月	7:30	朝食	
	8:30	職員は勤務割りどおりの出勤	デイサービスは臨時休業。職員5人出勤。配食弁当は6件。
	AM	入居者を居室に戻す。デイ職員の協力をもらって居室の片付けを手伝う。	相談員は利用者との連絡調整。介護員はケアハウス入居者の介護。
	12:00	昼食	
	PM	デイ職員の協力をもらって居室の片付けを手伝う。	相談員は利用者との連絡調整。介護員はケアハウス入居者の介護。
	16:00	夕食	
	17:30	職員帰宅、平常どおりの宿直1人体制	職員帰宅。
3/15 火	7:30	灯油確保が難しいので、全館の暖房を停止した。	デイサービス再開
		入浴もしばらく中止とした。	利用条件は、①家族送迎、②入浴無し、③昼食無し(弁当持参)
		一般廃棄物の回収が、ガソリン不足のため当分できないと業者から連絡がある。対策としてコンポストを購入し、生ゴミの分別を始めた。また施設内のペーパータオル使用をやめ、ハンカチ持参の協力を職員、入居者にした。	通所利用者4人、配食弁当7件。
			職員6人出勤。
			暖房は、対流式ストーブ1台と反射式ストーブ1台のみ
3/16 水		暖房停止、入浴中止。	利用条件は、①家族送迎、②入浴無し、③昼食無し(弁当持参)
			通所利用者1人、配食弁当7件。
			職員3人出勤。 暖房は、対流式ストーブ1台と反射式ストーブ1台のみ
3/17 木		暖房停止、入浴中止。	利用条件は、①家族送迎、②入浴無し、③昼食無し(弁当持参)
			通所利用者0人、配食弁当6件。
			職員2人出勤。 暖房は、対流式ストーブ1台と反射式ストーブ1台のみ
3/18 金		暖房停止。	平常営業
		午後から、デイサービスセンターの浴槽を借りて1週間ぶりの入浴を実施。20人が入浴。	通所利用者18人、配食弁当7件。
3/19 土		暖房停止、入浴中止。	利用条件は、①家族送迎、②入浴無し、③昼食無し(弁当持参)
			通所利用者1人、配食弁当0件。
			職員3人出勤。 暖房は、対流式ストーブ1台と反射式ストーブ1台のみ
3/20 日		暖房停止、入浴中止。	

エスカール在宅介護支援センター	博愛ヘルパーステーション	さくらまちケアホーム
		夕食(非常食対応)
		泊まり3人。
		夜勤1人、宿直1人。
		朝食
職員は勤務割りどおりの出勤。	常勤職員は勤務割りどおりの出勤。	職員は勤務割りどおりの出勤。
北上市や他事業所との連絡調整など、平常業務を行う。	パートヘルパー6人勤務。12人の利用者宅訪問。	通い利用者7人。
		昼食
北上市や他事業所との連絡調整など、平常業務を行う。	自転車、徒歩での訪問が主となる。	泊まり2人。
		夕食
職員帰宅。	職員帰宅。	職員帰宅。
	常勤職員は勤務割りどおりの出勤。	職員は勤務割りどおりの出勤。
平常勤務	パートヘルパー7人勤務。19人の利用者宅訪問。	通い利用者8人。
		昼食
	自転車、徒歩での訪問が主となる。	泊まり2人。
	一人暮らし等の利用者宅を優先とし、他は利用制限に協力していただく。	夕食
		夜勤1人、宿直1人。
平常勤務	常勤職員は勤務割りどおりの出勤。	通い利用者7人。
	パートヘルパー5人勤務。17人の利用者宅訪問。	
		泊まり3人。
	自転車、徒歩での訪問が主となる。	夜勤1人、宿直1人。
	常勤職員は勤務割りどおりの出勤。	通い利用者7人。
平常勤務	パートヘルパー8人勤務。23人の利用者宅訪問。	
	自転車、徒歩での訪問が主となる。	泊まり4人。
平常勤務	常勤職員は勤務割りどおりの出勤。	通い利用者7人。
	パートヘルパー9人勤務。23人の利用者宅訪問。	
		泊まり4人。
	訪問地域をまとめ、公用車にヘルパー2~3人乗って訪問開始。	
平常勤務	パートヘルパー6人勤務。16人の利用者宅訪問。	通い利用者6人。
		久しぶりの入浴実施(今日だけ)。
		泊まり3人。

日付	時間	ケアハウスエスカール	エスカールデイサービスセンター
3/21 月			平常営業
		暖房停止。	通所利用者21人、配食弁当5件。 職員9人出勤。
		午後から、デイサービスセンターの浴槽を借りて入浴を実施。21人が入浴。	暖房は、対流式ストーブ1台と反射式ストーブ1台のみ
3/22 火			利用条件は、①家族送迎、②入浴無し、③昼食無し(弁当持参)
		暖房停止、入浴中止。	通所利用者0人、配食弁当6件。 職員1人出勤。
		灯油、ガソリン、軽油の確保ができる目途が立つ。 午後から居室系の暖房を復活させる。	
3/23 水			平常営業
		暖房停止。	通所利用者9人、配食弁当6件。 職員5人出勤。
		午後から、デイサービスセンターの浴槽を借りて入浴を実施。17人が入浴。 灯油、ガソリン、軽油の確保ができる目途が立つ。 午後から居室系の暖房を復活させる。	暖房は、対流式ストーブ1台と反射式ストーブ1台のみ。 午後から、デイホール床暖房を入れる。
3/24 木			利用条件は、①家族送迎、②入浴無し、③昼食無し(弁当持参)
		居室系暖房のみ入れる。 節電の協力をする。	通所利用者0人、配食弁当6件。 職員1人出勤。 暖房停止。
3/25 金			平常営業
			通所利用者26人、配食弁当8件。 職員9人出勤。
			暖房は、対流式ストーブ1台と反射式ストーブ1台のみ

エスカール在宅介護支援センター	博愛ヘルパーステーション	さくらまちケアホーム
	ガス欠のときは、エスカールデイの公用車も使用することとし、平常どおりの訪問介護に戻す。 パートヘルパー11人勤務。30人の利用者宅訪問。	通い利用者6人。
平常勤務		
	平常体制になる。	通い利用者10人。
平常勤務		
		泊まり5人。
平常勤務	平常勤務	
平常勤務	平常勤務	通い利用者12人。 泊まり5人。

暖房、入浴、ケアハウス日課の完全復活は、3月28日(月)からだった。
入居者のある方からは、「釜石市の実家が流され、親類が亡くなった。避難所暮らしをしている者もいる」と聞かされる。今後は心のケアに努めていきたい。

大地震後、燃料や給食材料の状況に応じて利用者宅に何回も何回も利用状況の変更の電話を入れた。このため、混乱を防ぐ意味から、震災前と同様の平常営業は3/28からと通知した。送迎、昼食、入浴の一つでも欠けると利用者数は激減することがわかった。

公用車のガソリン確保ができたため、遠方の利用者宅にも訪問を始めた。
利用者本人や身内で被災された方は今のところない。家の中の片付けも一段落したようだ。

公用車のガソリンは確保できたが、パートヘルパーのガソリン確保が未だに難しく、公用車使用の訪問が増えて来ている。
ガソリン事情が早いうちに、元のようになってくれればと思う。

今回の大地震で建物に全く被害の無かったのは博愛会では、さくらまちケアホームだけだった。
もし、県や市から要望があれば被災した要介護者の受け入れを2人まで考えている。

社会福祉法人博愛会のあゆみ（平成 26 年～平成 31 年）

平成 26 年 (2014)	<p>7/31 地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里引渡式</p> <p>7/31 エスカール園長・鹿俣達也氏退任</p> <p>8/1 エスカール園長に伊藤絹子氏就任（4代目）</p> <p>8/1 地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里園長に鹿俣達也氏就任(初代)</p> <p>8/12 地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里開所</p> <p>10/16 さくらまちケアホーム消防設備整備工事の入札（エスカール会議室） 入札参加業者：5社、落札者：(株)近藤設備、落札額：7,560,000円</p> <p>10/17 さくらまちケアホーム消防設備整備工事着手</p> <p>11/5 さくらまちケアホーム消防設備整備工事における消防署の検査合格</p>
平成 27 年 (2015)	<p>10/19 財政援助団体の監査対象（平成 26 年分）「介護サービス施設等整備臨時特例事業費補助金」「施設開設準備経費助成特別対策事業費補助金」「地域介護・福祉空間整備等施設整備補助金」 指摘事項なし</p>
平成 28 年 (2016)	<p>3/31 八天の里園長・川邊泰雄氏退職</p> <p>4/1 八天の里園長に高橋智子氏就任（6代目）</p> <p>7/19 デイサービスセンター浮牛の里業務用給湯設備設置工事請負契約締結 請負業者：(有)北上プロパン 請負額：3,456,000円(税込み)</p> <p>10/18 デイサービスセンター浮牛の里業務用給湯器設置工事竣工検査合格</p>
平成 29 年 (2017)	<p>3/31 エスカール園長・伊藤絹子氏退職</p> <p>4/1 エスカール園長に福地弘氏就任（5代目）</p>
平成 30 年 (2018)	<p>1/16 さくらまちケアホームの休止届を北上市に提出 (休止期間：H30年4月1日～H30年9月30日)</p> <p>7/31 第1回社会福祉法人博愛会および社会福祉法人もぐれい会合併協議会</p> <p>8/24 第2回社会福祉法人博愛会および社会福祉法人もぐれい会合併協議会</p> <p>9/27 さくらまちケアホームの休止届を北上市に提出 (休止期間：H30年10月1日～H31年3月31日)</p> <p>12/4 第3回社会福祉法人博愛会および社会福祉法人もぐれい会合併協議会</p>
平成 31 年 (2019)	<p>3/10 社会福祉法人博愛会ホームページ リニューアル公開</p> <p>4/1 さくらまちケアホーム事業休止 (H31年4月1～H32年3月31日)</p>



地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里引渡式（H26.7.31）



地域密着型特別養護老人ホーム浮牛の里オープン（H26.8.12）

社会福祉法人博愛会のあゆみ（令和元年～令和3年）

令和元年 (2019)	11/3 ケアハウスエスカール高圧機器（キュービクル内）更新工事
令和2年 (2020)	4/1 さくらまちケアホーム事業休止（R2年4月1～R3年3月31日） 4/16 コロナウイルス感染拡大し、国が全国緊急事態発令 7/15 さくらまちケアホーム事業廃止 11/1 地域包括支援センター展勝地事務所が旧さくらまちケアホーム建物に移転 実質オープンは11/2～ 11/17 特養八天の里短期入所から長期入所への6床転用について差し支えない旨の回答文書受理
令和3年 (2021)	3/31 浮牛の里園長・鹿俣達也氏退職 3/31 八天の里園長・高橋智子氏退任 3/31 エスカール園長・福地弘氏退任 4/1 博愛会初となる外国人介護員（ベトナム人）採用。特養八天の里に配属 4/1 八天の里園長に福地弘氏就任（7代目） 4/1 エスカール園長に高橋智子氏就任（6代目） 4/1 浮牛の里園長に及川佳寿美氏就任（2代目） 5/28 法人設立28周年記念日



ガラス越し面会（八天の里）



コロナワクチン接種（浮牛の里）



博愛会初の外国人職員・ジャンさん（R3.4.1）

社会福祉法人博愛会 歴代理事・監事紹介

敬称略

 理事 盛合 長之助 (H5.5.31～H17.5.30) 11年11ヶ月	 理事 福盛田 共治 (H5.5.31～H5.12.31) 0年7ヶ月	 理事 千田 三一 (H5.5.31～H19.2.14) 13年8ヶ月	 理事長 及川 優 (H5.5.31～現在) 28年11ヶ月	 理事 及川 清 (H5.5.31～H13.5.30) 7年11ヶ月
 理事 川村 壽一 (H6.2.5～H17.5.30) 11年3ヶ月	 理事 及川 紅子 (H5.5.31～H29.6.9) 16年0ヶ月	 理事 平野 牧郎 (H17.5.31～H29.6.9) 12年0ヶ月	 理事 澤藤 修三 (H5.5.31～H27.5.30) 21年11ヶ月	 理事 及川 和子 (H5.5.31～H22.7.23) 17年1ヶ月
 理事 八重樫 イワ子 (H23.5.31～H27.5.30) 3年11ヶ月	 理事 川邊 泰雄 (H25.5.31～現在) 8年11ヶ月	 理事 上原 耕太郎 (H27.5.31～H29.3.3) 1年10ヶ月	 理事 及川 誠 (H17.5.31～H25.5.30) 7年11ヶ月	 理事 鹿俣 達也 (H19.5.31～現在) 14年11ヶ月
 理事 及川 忠男 (H29.6.9～R1.6.22) 2年0ヶ月	 理事 川邊 博文 (R1.6.22～現在) 2年10ヶ月	 理事 福地 弘 (R1.6.22～現在) 2年10ヶ月	 理事 伊藤 絹子 (H27.5.31～H1.6.22) 4年0ヶ月	 理事 高橋 智子 (H29.6.9～現在) 4年10ヶ月
 監事 齋藤 慶太郎 (H17.5.31～R3.6.19) 16年0ヶ月	 監事 加美山 春美 (H23.5.31～H29.3.18) 5年9ヶ月	 監事 八重樫 イワ子 (H29.5.15～H29.6.18) 1ヶ月	 監事 菅原 勲二 (H5.5.31～H13.5.30) 11年11ヶ月	 監事 八重樫 イワ子 (H5.5.31～H23.5.30) 17年11ヶ月
	 監事 松本 弘子 (R3.6.19～現在) 10ヶ月	 監事 堤 研一 (H29.6.9～現在) 4年10ヶ月		

社会福祉法人博愛会 歴代評議員紹介

敬称略



評議員
盛合 長之助
(H11.5.22～H13.5.21)
(H14.1.21～H17.5.21)
5年3ヶ月



評議員
川村 寿一
(H11.1.22～H17.5.30)
6年0ヶ月



評議員
千田 三一
(H11.1.22～H19.2.14)
7年9ヶ月



評議員
澤藤 修三
(H11.5.22～H14.1.10)
(H19.5.22～H27.5.21)
10年6ヶ月



評議員
及川 和子
(H11.5.22～H13.5.21)
(H14.1.21～H22.7.23)
10年6ヶ月



評議員
加美山 春美
(H11.5.22～H23.5.21)
12年0ヶ月



評議員
松本 弘子
(H11.5.22～R3.6.19)
22年1ヶ月



評議員
杉村 淳
(H11.5.22～H15.6.21)
3年1ヶ月



評議員
及川 忠男
(H11.5.22～H29.3.31)
17年10ヶ月



評議員
小原 文子
(H11.5.22～H26.12.13)
15年7ヶ月



評議員
齋藤 慶太郎
(H11.5.22～H17.5.21)
6年0ヶ月



評議員
及川 紅子
(H11.5.22～H13.5.21)
2年0ヶ月



評議員
山田 隆之
(H11.5.22～H19.5.21)
8年10ヶ月



評議員
佐藤 俊一
(H11.5.22～H14.1.10)
2年8ヶ月



評議員
及川 博文
(H13.5.22～H29.3.31)
15年10ヶ月



評議員
及川 博隆
(H13.5.22～H21.5.21)
6年0ヶ月




評議員
太田代 公
(H13.5.22～H23.5.21)
9年11ヶ月



評議員
及川 誠
(H15.5.22～H17.5.21)
(H19.5.22～H25.5.21)
7年10ヶ月



評議員
佐藤 敬英
(H17.5.22～現在)
16年11ヶ月



評議員
鹿俣 達也
(H17.5.22～H29.3.31)
11年10ヶ月



評議員
平野 牧郎
(H17.5.22～H29.3.31)
11年10ヶ月



評議員
及川 深雪
(H21.5.2～H29.3.31)
7年10ヶ月



評議員
深田 紀子
(H23.5.22～現在)
10年11ヶ月



評議員
上原 耕太郎
(H23.5.22～現在)
10年11ヶ月



評議員
佐藤 絢子
(H23.5.22～H25.5.21)
1年11ヶ月



評議員
八重樫 イワ子
(H23.5.22～H27.5.21)
3年11ヶ月



評議員
小田島 和寿
(H25.5.22～現在)
7年11ヶ月



評議員
川邊 泰雄
(H25.5.22～H29.3.31)
3年10ヶ月



評議員
伊藤 絹子
(H26.12.13～H29.3.31)
2年3ヶ月



評議員
川村 恵壽
(H27.5.22～現在)
6年11ヶ月



評議員
山田 節子
(H27.5.22～H29.3.31)
1年10ヶ月



評議員
高橋 智子
(H27.5.22～H29.3.31)
1年10ヶ月



評議員
千葉 理絵
(H29.4.1～現在)
5年1ヶ月



評議員
軽石 強
(R3.6.19～現在)
10ヶ月

社会福祉法人博愛会 歴代選任・解任委員紹介

敬称略



選任・解任委員
渡邊 和泰
(H29.2.4～現在)
5年2ヶ月



選任・解任委員
齋藤 慶太郎
(H29.2.4～R3.6.19)
4年4ヶ月



選任・解任委員
松本 弘子
(R3.6.19～現在)
10ヶ月

社会福祉法人博愛会 歴代第三者委員紹介

敬称略




第三者委員
小原 文子
(H13.2.20～H26.11.19)
13年9ヶ月



第三者委員
千田 善弘
(H14.2.20～H23.2.19)
4年4ヶ月



第三者委員
菅野 佐知子
(H23.2.20～現在)
11年2ヶ月



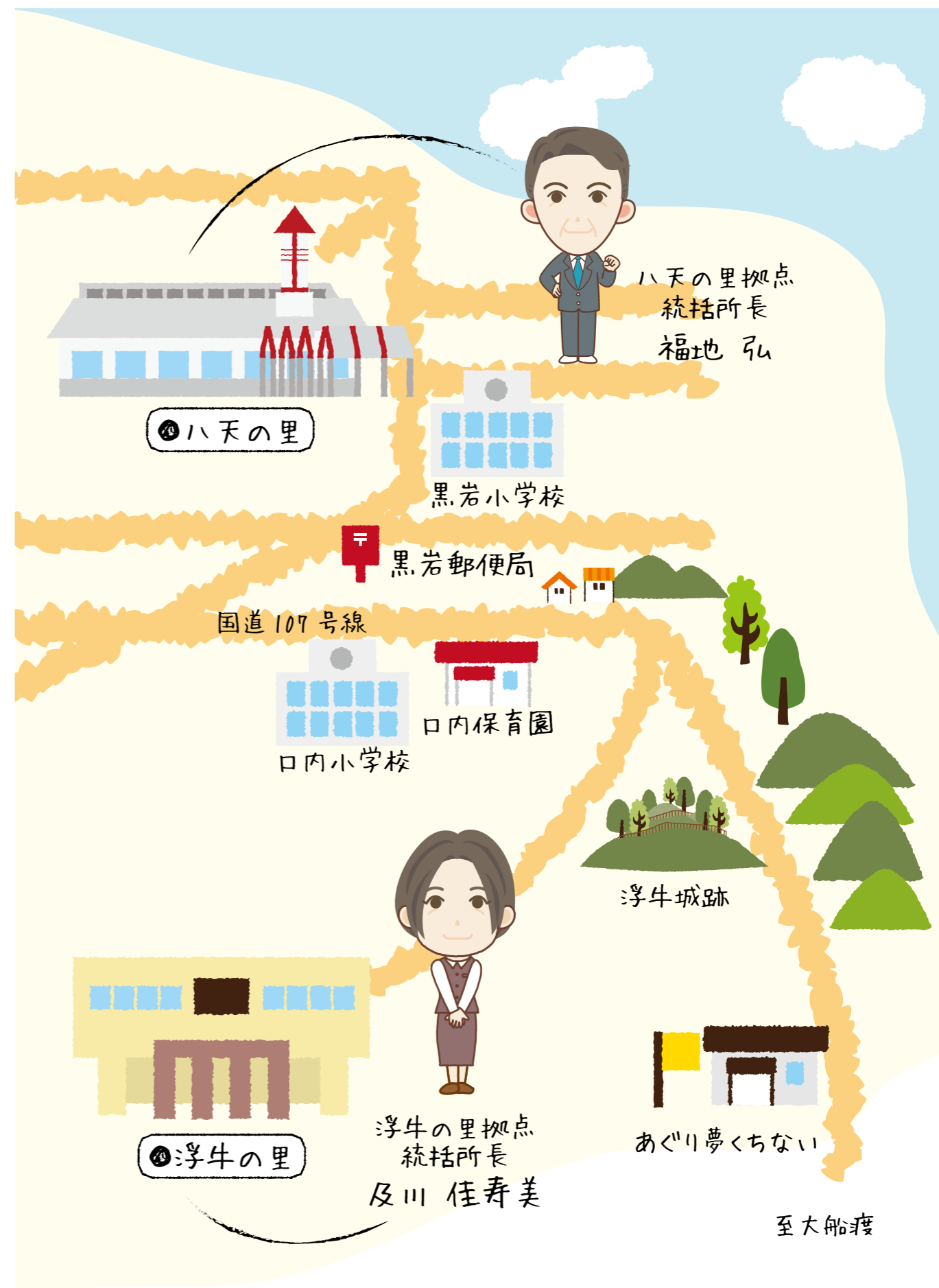
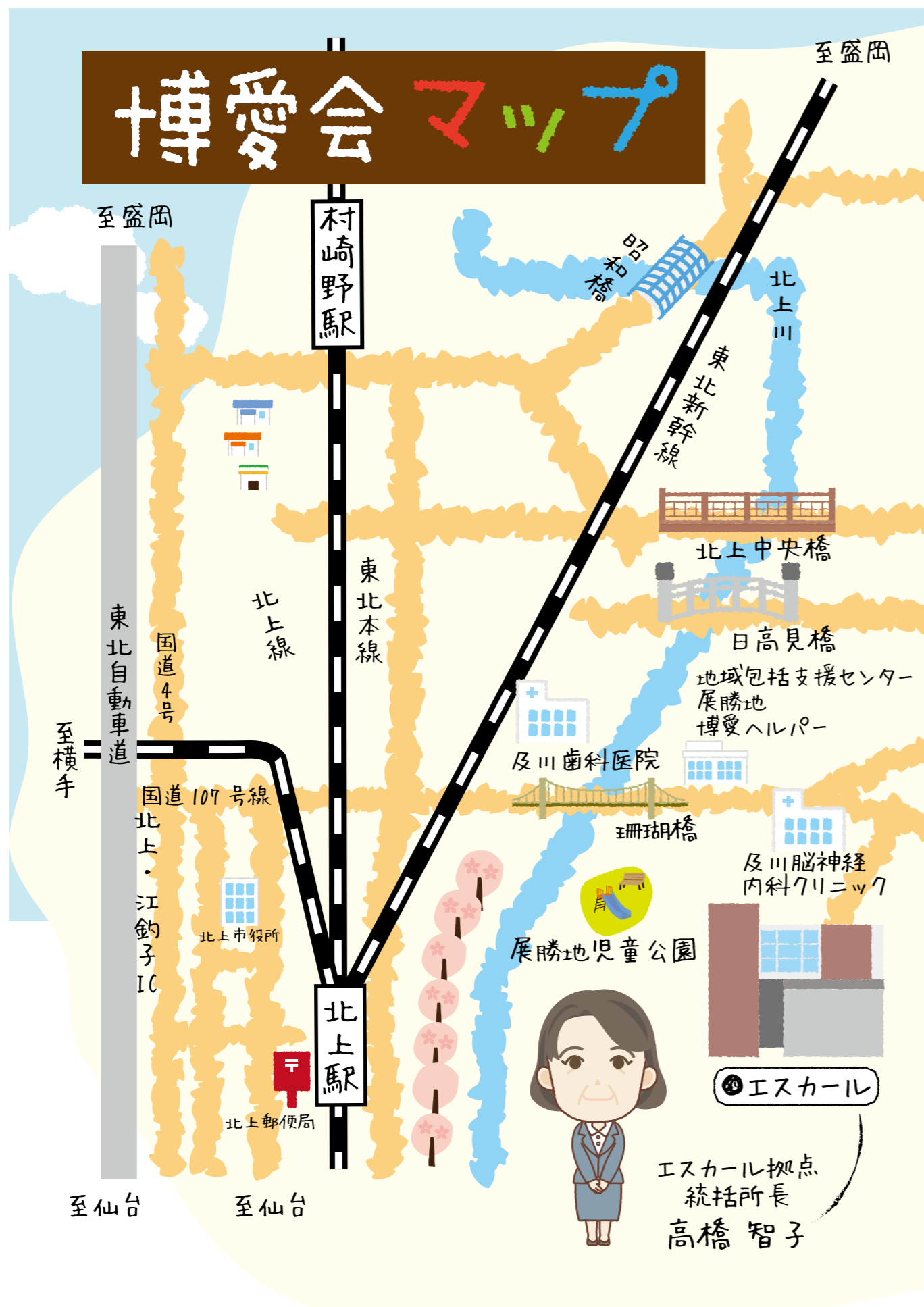
第三者委員
熊谷 徳雄
(H13.2.20～現在)
21年2ヶ月



第三者委員
菅 喜一
(H13.2.20～H14.2.19)
1年



第三者委員
深田 紀子
(H26.11.20～現在)
7年5ヶ月



展勝地の桜が、今年も咲きました。4階建てのエスカールの屋上から見える桜並木は、本当に見事です。

今回、博愛会誕生物語の編集に携わってみて、理事長や初代理事たちが、法人設立の2年前から「寝たきり老人を考える会」を組織して、着々と準備を進めていたこと、「牛小屋での死」が法人設立のきっかけとなっていたことを初めて知りました。

「寝たきり老人を考える会」のメンバーの皆様に話を聞いて、今回の記念誌に掲載できればよかったのですが、理事長ご夫妻以外は、すでに故人となられていました。ご存命のうちに、苦労話や博愛会への思いを聞いておけばよかったと思ってもすでに遅し、とても残念です。

「博愛会誕生物語」の編集にあたり、3拠点の年表を作り、ネガフィルムをデジタル化したりする作業に時間をとられました。沿革を語るための資料が処分されていたり、デジタルカメラのデータをパソコンの更新と一緒に処分したりしていたためです。沿革について、日頃から意識して、資料集めや写真の保存をしておくことが大切だということを、痛切に感じました。

お忙しいなか、記念誌作成にご協力いただいた関係者の皆様には、心から感謝申し上げます。

令和4年5月1日

編集委員長 鹿俣 達也
 編集委員 及川 江美子
 福地 弘
 高橋 智子
 及川 佳寿美

社会福祉法人博愛会 30周年記念誌

博愛会誕生ものがたり 30年を振り返って

- 発行日 ■ 令和4年5月1日
- 発行者 ■ 社会福祉法人博愛会 理事長 及川 優
岩手県北上市立花 10 地割 38 番地
Tel 0917-61-2015
- 印刷所 ■ 株式会社フジサキ
岩手県北上市常盤台 1 丁目 6 番 18 号
Tel 0197-65-1184